



下水道モニター 平成26年度 第1回アンケート結果

東京都下水道局では、様々な事業を行っています。

第1回アンケートでは、東京都下水道局の事業活動に対する認知度や評価、東京都の下水道が抱える課題、下水道事業の認知経路などについてうかがいました。

この報告書は、その結果をまとめたものです。

- ◆ 実施期間 平成26年5月16日（金）から6月1日（日）17日間
- ◆ 対象者 東京都下水道局「平成26年度下水道モニター」
※東京都在住 20歳以上の男女個人
- ◆ 回答者数 540名
- ◆ 調査方法 ウェブ形式による自記式アンケート

【目次】

- I 結果の概要
- II 回答者属性
- III 集計結果
 - 1. 下水道の役割や仕組みの認知度、重要度、社会的貢献度
 - 2. 下水道の課題
 - 3. 新たな事業活動の認知度と社会的貢献度評価
 - 4. 下水道事業の評価基準
 - 5. 下水道に関するニーズ
 - 6. 下水道事業の認知経路
 - 7. 下水道事業に関する情報の探求意思、共有欲求
 - 8. 下水道局へのご意見・ご要望など

I 結果の概要

1. 下水道の役割や仕組みの認知度、重要度、社会的貢献度

5～12 頁

◇ 【水質改善】

(認知度) 全体では、「知っていた」との回答が 88%と多かったが、平成 25 年度調査では 92%で 4 ポイント低下した。男女別では、男性は 90%、女性は 86%であった。年代別にみると、50 歳代、60 歳代、70 歳以上では他よりも多く 90%以上で、最も少ないのは 20 歳代 82%であった。地域別では、23 区では 88%、多摩地区で 89%であった。

(重要度) 全体では「非常に重要である」との回答が 80%と多かったが、平成 25 年度調査では 84%であり、4 ポイント低下した。男女別では、男性 79%、女性 82%となり、女性の方が男性よりも 3 ポイント高かった。年代別にみると、「非常に重要である」について 40 歳代、60 歳代、70 歳以上で 80%以上であった。地域別にみると、「非常に重要である」について 23 区、多摩地区ともに 80%であった。

(貢献度) 全体では「非常に貢献度がある」との回答が 73%と多く、平成 25 年度調査では 84%であり、9 ポイント低下した。男女別では、男性が 70%、女性が 75%であった。年代別にみると、最も回答が多いのは 70 歳以上で 81%となり、最も少ないのは 30 歳代で 77%であった。地域別では、23 区、多摩地区ともに 73%となった。

◇ 【浸水防除】

(認知度) 全体では、「知っていた」が 80%と多く、平成 25 年度調査では 81%であり、1 ポイント下がった。男女別では、男性が 90%、女性が 70%であった。年代別にみると、20 歳代～60 歳代までは年代が上がるにつれて回答も上昇していった。最も少ないのは 20 歳代で 74%、一方で最も多いのは 60 歳代で 90%となった。地域別では、23 区、多摩地区ともに 80%となった。

(重要度) 全体では、「非常に重要である」が 80%と多く、平成 25 年度調査では 84%であり、4 ポイント低下した。男女別にみると、男性が 79%、女性が 82%であった。年代別にみると、40 歳代、60 歳代、70 歳以上で 80%以上であった。地域別では、23 区、多摩地区ともに 80%であった。

(貢献度) 全体では、「非常に貢献度がある」が 66%と多く、平成 25 年度は 61%であり、5 ポイント高くなった。男女別では、男性が 62%、女性が 70%であった。年代別にみると、30 歳代と 70 歳以上で 69%、次いで 40 歳代と 60 歳代が 66%であった。地域別では、23 区が 69%、多摩地区が 61%であった。

2. 下水道の課題

13～23 頁

◇ 【下水道管の老朽化(認知度)】…全体では「知っていた」が 39%だった。平成 22 年度調査では 42%で、3 ポイント低下した。男女別にみると、「知っていた」は男性が 47%、女性が 31%となった。年代別にみると、年代が上がるにつれて「知っていた」が多くなる。地域別では、23 区が 38%、多摩地区が 40%であった。

- ◇ 【下水道管の老朽化(感想)】…全体では99%の人が「深刻な問題である(とても深刻な問題だと思う+すこし深刻な問題だと思う)」と考えており、平成22年度調査では99%で同じとなった。男女別にみると、男性が98%、女性が99%であった。年代別にみると、30歳代、40歳代、70歳以上が最も多く、20歳代が最も少なく97%であった。地域別にみると、23区が82%、多摩地区が77%であった。
- ◇ 【都市型浸水対策(認知度)】…全体では「知っていた」が74%と多く、平成22年度調査では77%で、1ポイント低かった。男女別にみると、男性が79%、女性が68%であった。年代別にみると年代が上がるにつれて多くなり、70歳以上で88%となった。地域別にみると、23区が70%、多摩地区が71%であった。
- ◇ 【都市型浸水対策(感想)】…全体では99%が「深刻な問題である(とても深刻な問題だと思う+すこし深刻な問題だと思う)」と考えており、平成22年度調査では99%で、1ポイント多くなった。男女別にみると、男女ともに98%であった。年代別にみると、20歳代、70歳代以上で99%であった。地域別にみると、23区が99%、多摩地区で98%であった。
- ◇ 【合流式下水道の改善(認知度)】…全体では23%が「知っていた」であった。これは平成22年度調査では23%で、同ポイントとなった。男女別にみると、男性が31%、女性が15%であった。年代別にみると30歳代以降、年代が上がるにつれて回答が多くなる。地域別では、23区が24%、多摩地区が22%であった。
- ◇ 【合流式下水道の改善(感想)】…全体では97%が「深刻な問題である(とても深刻な問題だと思う+すこし深刻な問題だと思う)」でと考えており、平成22年度調査では99%で、2ポイント減少した。「深刻な問題である(とても深刻な問題だと思う)」について、男女別にみると、男性が56%、女性が66%となった。年代別にみると、最も少なくなるのは50歳代であり57%となった。地域別にみると、23区、多摩地区ともに68%であった。
- ◇ 【課題の公表】…全体では63%が「積極的に知らせるべきだ」と思っている。平成22年度調査と比較して、2ポイント減少した。男女別では、男性が66%、女性が59%であった。最も少ないのは30歳代の53%であり、最も多いのは70歳以上の77%であった。

3. 新たな事業活動の認知度と社会的貢献度評価

24~31 頁

◇ 【新たな事業活動の認知度】

7)高度処理技術の開発・導入」39%、「3)下水汚泥をセメントなどの原料とする資源化への取組」31%と他の事業活動よりも高い。男女別にみると、ほとんどの事業で男性の方が「知っていた」と回答する傾向があった。地域別にみると、23区、多摩地区ともに「1)きれいにした再生水をビルのトイレ用水や車両洗浄に利用」が、23区が65%、多摩地区が63%で最も高くなった。年代別にみると、50歳代を除き、全ての年代において、「1)きれいにした再生水をビルのトイレ用水や車両洗浄に利用」が他の事業活動よりも高くなった。

◇ 【新たな事業活動の社会的貢献度】

全体ではほとんどの活動が80%以上「役立っている（非常に役立っている＋かなり役立っている）」と評価しており、もっとも高く評価されているのは「1.きれいにした再生水をビルのトイレ用水や車両洗浄に利用」で、「6.下水道管に光ファイバーを通すITの推進」は27%であった。

◇ 【新たな事業活動の需要状況と総合評価に影響する要因】

認知度、社会的貢献度で高い事業と認知されているのは共に、「1.きれいにした再生水をビルのトイレ用水や車両洗浄に利用」であった。

4. 下水道事業の評価基準

32～35 頁

- ◇ 【下水道事業の評価基準】・・・全体では「1.公共性（国民、地域住民のために役立つ事業であるか）」が87%と最も多い。次いで、「3.環境貢献度（私たちが住む環境の保全に貢献しているか）」78%、「4.災害リスク対応度（災害リスクへの対応が想定されているか）」71%と続く。男女別でみると、男女ともに「1.公共性（国民、地域住民のために役立つ事業であるか）」を重視していることが分かった。

5. 下水道に関するニーズ

36～40 頁

- ◇ 【下水道について知りたいこと】…全体では「2. 下水道の働きや役割・貢献内容」との回答が76%と最も多く、次いで「3. 下水道料金の内訳と使い道」62%であった。平成25年度調査と比べると、「4. 下水道に関する教育・啓発施設（資料館等）について」はニーズが高くなっていた。「2. 下水道の事業計画・進捗状況」「6. 下水道局の地域連携の状況」「8. 下水道の歴史」を除いた全ての項目において女性の方が多く回答している。地域別にみると、「1. 下水道の働きや役割」が最も回答が多く、23区は76%、多摩地区では77%であった。

6. 下水道事業の認知経路

41～44 頁

- ◇ 【下水道事業の認知経路】…全体では、回答が多かった順に「9.広報東京都」56%、「10. 下水道局ホームページ」45%、「2.テレビ番組・ニュース」27%となった。年代別にみても、「9.広報東京都」は年代が上がるにつれて回答も多くなっている。

7. 下水道事業に関する情報の探求意思、共有欲求

45～46 頁

- ◇ 【下水道事業に関する情報の探求意思】…下水道局や下水道事業について、さらに詳しく知りたいと思うかという質問について、全体では、「知りたいと思う（非常にそう思う＋ややそう思う）」との回答が79%で、平成25年度調査とほぼ同様の結果が得られている。
- ◇ 【下水道事業に関する情報の共有欲求】…下水道事業について知らせたいと思う理由としては、「情報を共有したいと思う（非常にそう思う＋ややそう思う）」との回答が81%となった。

- ◇ 【下水道局へのご意見・ご要望など】…ご意見やご要望としては、アンケートにより「さらなるPRや教育活動必要」が19%と最も多く、次いで「活動内容がわかり有意義」が16%、「3.知識・理解を深めたい」「6.家庭でできることを知りたい・協力したい」が共に12%であった。

II 回答者属性

- 平成 26 年度下水道モニター数は、アンケート実施時で 1024 名である。
- 第 1 回アンケートは、平成 26 年 5 月 16 日（金）から 6 月 1 日（日）までの 17 日間で実施した。その結果、540 名の方からの回答があった。（回答率 52.7%）

■ 回答者 性・年代

性・年齢		回答者数	モニター数	回答率
男性	20 歳代	9	28	32.1%
	30 歳代	52	116	44.8%
	40 歳代	76	161	47.2%
	50 歳代	57	105	54.3%
	60 歳代	55	92	59.8%
	70 歳以上	22	37	59.5%
	小計	271	539	50.3%
女性	20 歳代	25	53	47.2%
	30 歳代	86	162	53.1%
	40 歳代	75	143	52.4%
	50 歳代	42	68	61.8%
	60 歳代	37	51	72.5%
	70 歳以上	4	8	50.0%
	小計	269	485	55.5%
合計		540	1024	52.7%

■ 回答者 居住地域

地域	回答者数	モニター数	回答率
23 区	328	626	52.4%
多摩地区	212	398	53.3%
合計	540	1024	52.7%

■ 回答者 職業

職業	回答者数	モニター数	回答率
会社員	228	477	47.8%
自営業	48	86	55.8%
学生	9	20	45.0%
私立学校教員・塾講師	5	12	41.7%
パート	33	66	50.0%
アルバイト	11	24	45.8%
専業主婦	121	204	59.3%
無職	74	106	69.8%
その他	11	29	37.9%
合計	540	1024	52.7%

Ⅲ 集計結果

※ 文中の「n」は、質問に対する回答者数で、比率(%)はすべて「n」を基数(100%)として算出している。
また、小数点以下を四捨五入してあるので、内訳の合計が100%にならないこともある。

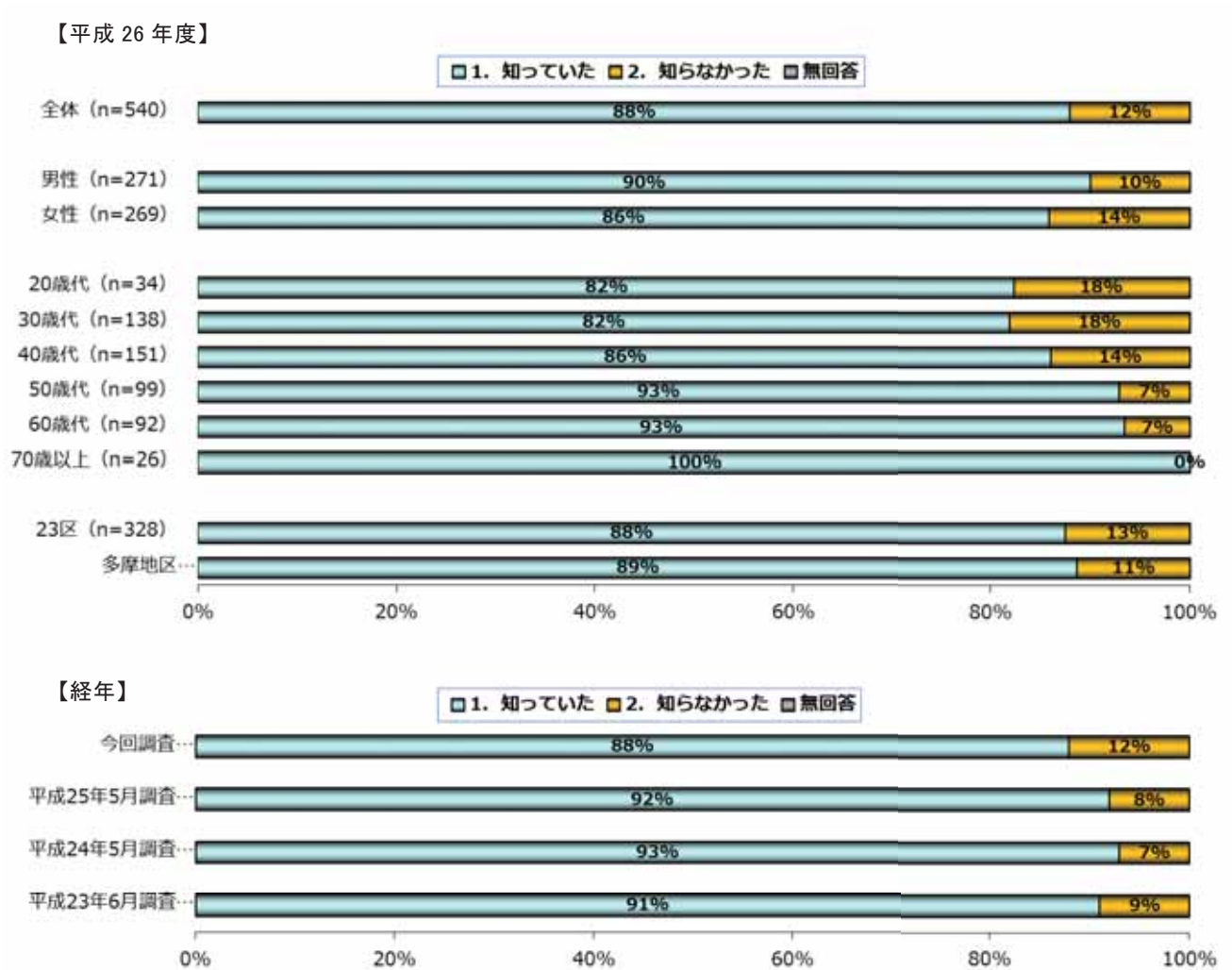
1. 下水道の役割や仕組みの認知度、重要度、社会的貢献度

1-1. 下水道の役割「水質改善」の認知度

- 全体では、「知っていた」との回答が多く88%となった。
 - 男女別にみると、「知っていた」との回答は男性は90%、女性は86%であった。
 - 年代別にみると、「知っていた」との回答は50歳代、60歳代、70歳以上では他よりも多く90%以上で、最も少ないのは20歳代82%であった。
 - 地域別にみると、23区では88%、多摩地区で89%であった。
 - 下水道事業（①水質改善）の認知度の経年変化をみると、「知っていた」との回答は平成25年度調査では92%と最も多く、それに比較して今年度は4ポイント低かった。
-

Q5. 下水道には、家庭や工場などから出る汚れた水を、きれいにしてから川や海に放流するという「水質改善」の役割があります。あなたは、このことをご存知でしたか？以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選び下さい（単一回答）。

図 1-1 「水質改善」の認知度

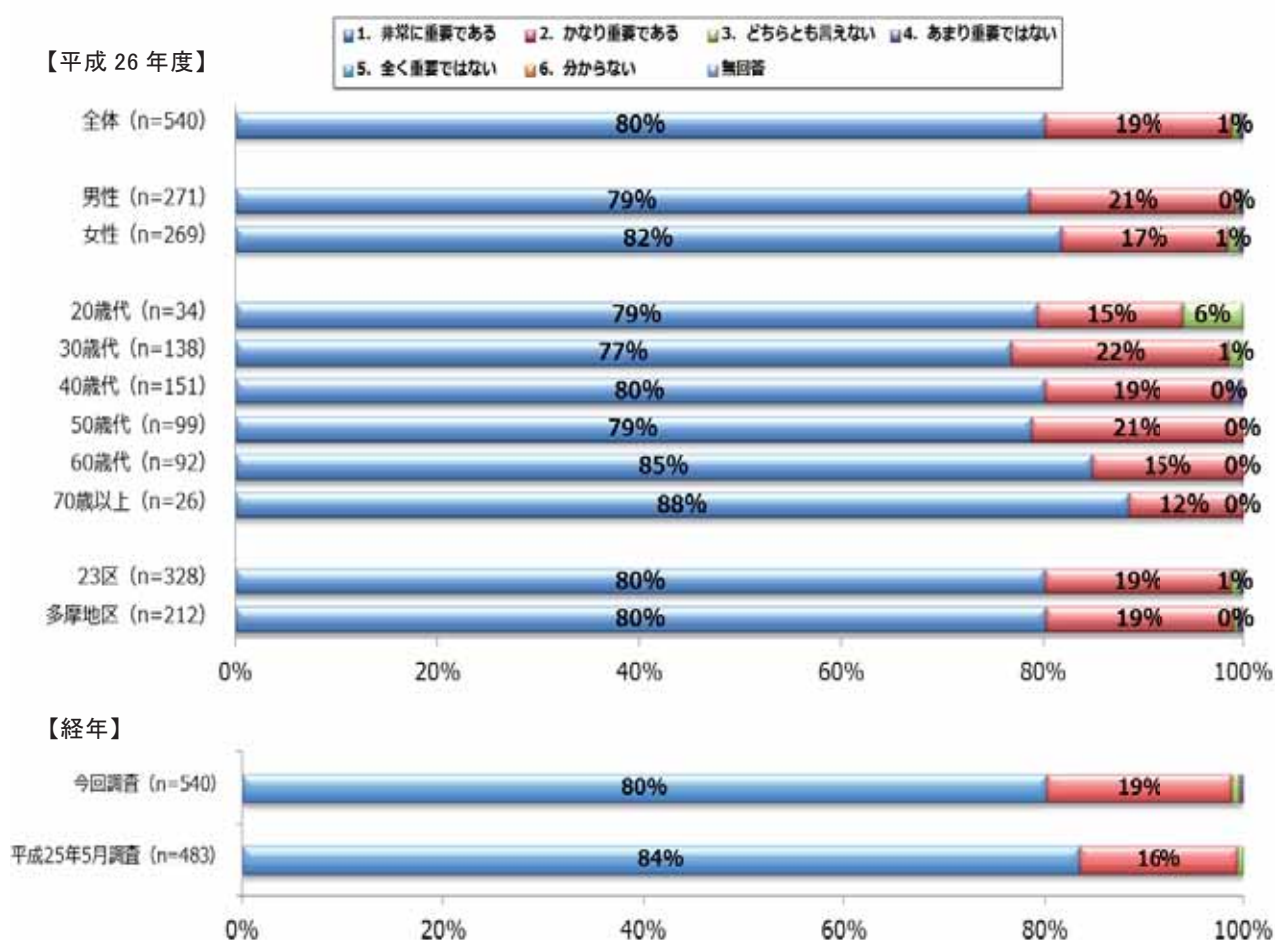


1-2. 下水道の役割「水質改善」の重要度

- 全体では「非常に重要である」との回答が多く 80%となった。
- 男女別にみると、「非常に重要である」は男性 79%、女性 82%となった。女性の方が男性よりも3ポイント高かった。
- 年代別にみると、「非常に重要である」について40歳代、60歳代、70歳以上で80%以上であった。
- 地域別にみると、「非常に重要である」について23区、多摩地区ともに80%であった。
- 下水道事業（①水質改善）の重要度の経年変化をみると、「非常に重要である」との回答は平成25年度調査では84%であり、4ポイント低かった。

Q6. 水質改善の役割について、あなたはどのくらい重要であると思われますか？以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選び下さい（単一回答）。

図 1-2 「水質改善」の重要度



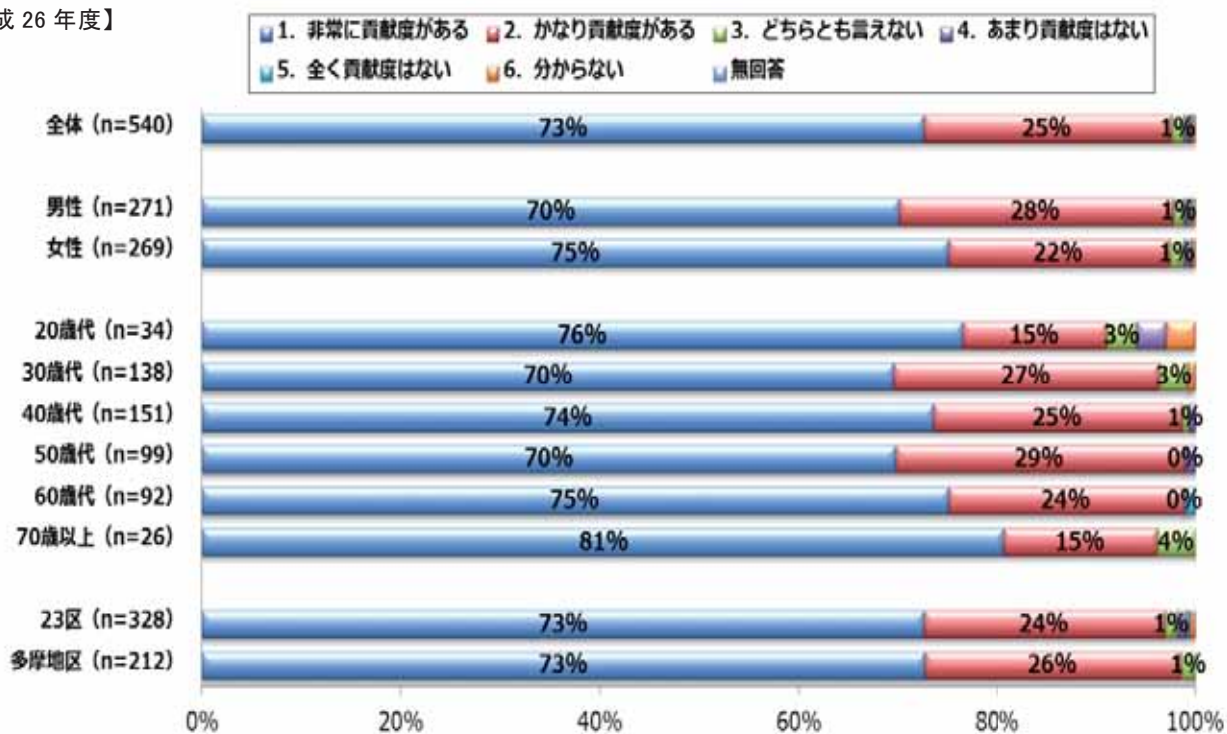
1-3. 下水道の役割「水質改善」の社会的貢献度

- 全体では「非常に貢献度がある」との回答が多く 73%となった。
- 男女別にみると、「非常に貢献度がある」は男性が 70%、女性が 75%であり、女性の方が男性よりも 5 ポイント高かった。
- 年代別にみると、「非常に貢献度がある」について最も回答が多いのは 70 歳以上で 81% となり、全ての年代で 70%以上であった。
- 地域別にみると、「非常に貢献度がある」について 23 区、多摩地区ともに 73%となった。
- 昨年度との経年変化をみると、「非常に貢献度がある」との回答は平成 25 年度調査では 70%であり 6 ポイント多くなった。

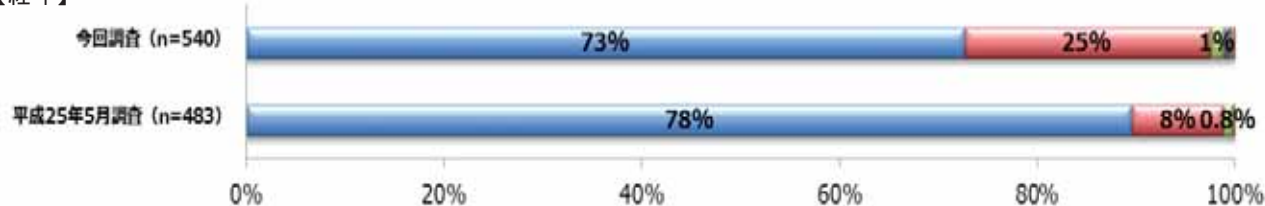
Q7. 水質改善の役割は、我々の生活にとってどのくらい社会的な貢献度が高いと思われますか？以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選び下さい（単一回答）。

図 1-3 「水質改善」の社会的貢献度

【平成 26 年度】



【経年】



1-4. 下水道の役割「浸水防除」の認知度

- 全体では、「知っていた」との回答が多く 80%となった。
- 男女別にみると、「知っていた」は男性で 90%、女性は 70%となり、男性の方が女性よりも 20 ポイント高くなった。
- 年代別にみると、20 歳代～60 歳代までは年代が上がるにつれて「知っていた」との回答も上昇していった。最も少ないのは 20 歳代で 74%、一方で最も多いのは 60 歳代で 90%となった。次いで 50 歳代の 79%であった。
- 地域別にみると、「知っていた」との回答は 23 区、多摩地区ともに 80%となった。
- 昨年度との経年変化をみると、「知っていた」との回答は、平成 25 年度調査では 81%であり、1 ポイント低かった。

Q8. 下水道には、雨水を下水道管を通して川や海に流し、大雨による浸水からまちを守るという「浸水防除」の役割があります。あなたは、このことをご存知でしたか？以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選び下さい（単一回答）。

図 1-4 「浸水防除」の認知度

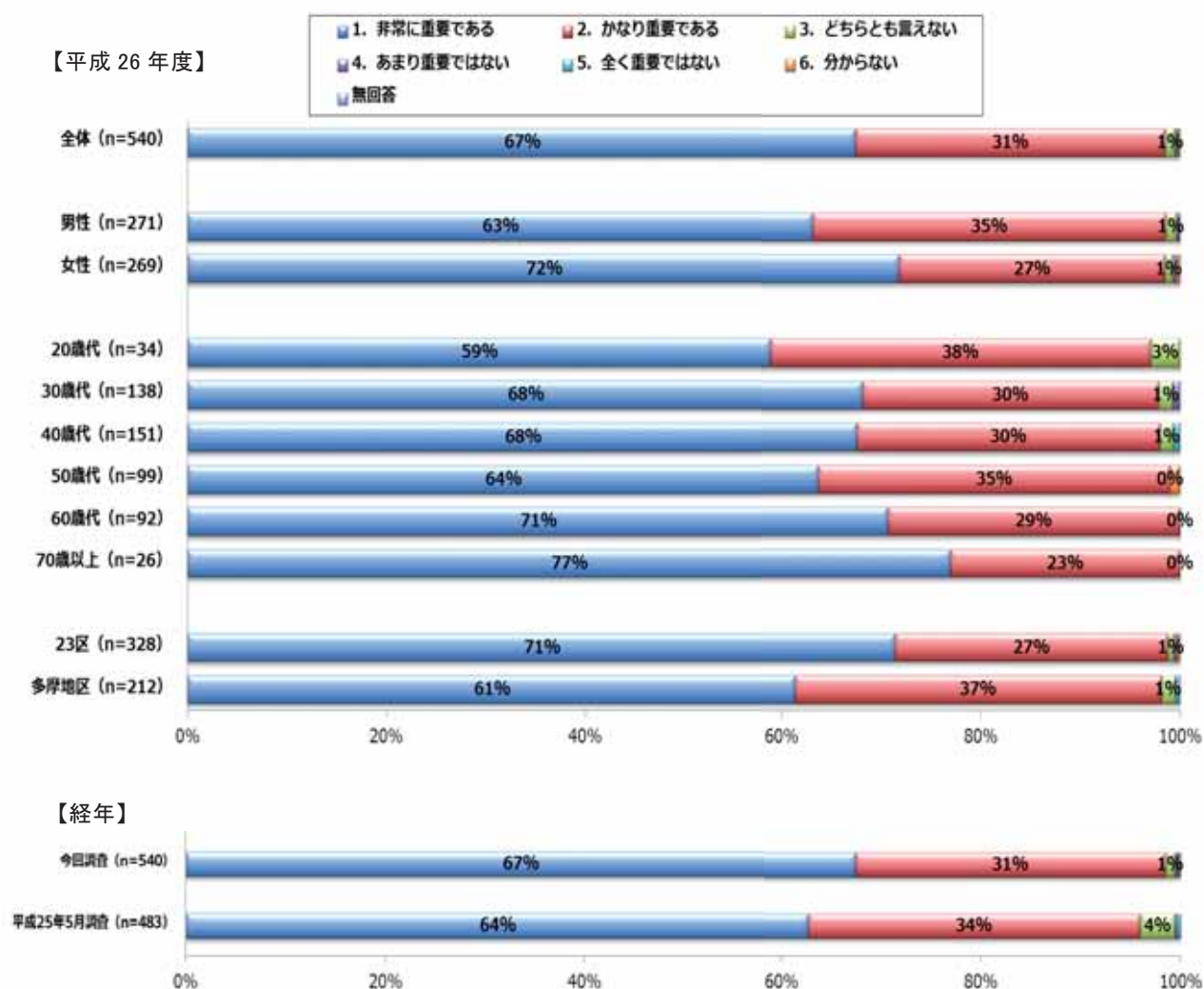


1-5. 下水道の役割「浸水防除」の重要度

- 全体では「非常に重要である」との回答が多く 67%となった。
- 男女別にみると、「非常に重要である」は男性が 63%、女性が 72%となり、女性の方が男性よりも 9 ポイント高くなった。
- 年代別にみると、最も多くなったのは 70 歳以上で 77%、次いで 60 歳代の 71%であった。
- 地域別にみると、23 区で 71%、多摩地区で 61%となり、23 区が 10 ポイント高くなった。
- 昨年度の経年変化をみると、「非常に重要である」との回答は、平成 25 年度調査では 64%であり、3 ポイント高くなった。

Q9. 浸水防除の役割について、あなたは、どのくらい重要であると思われますか？以下の選択肢の中から、該当するもの一つだけお選び下さい（単一回答）。

図 1-5 「浸水防除」の重要度

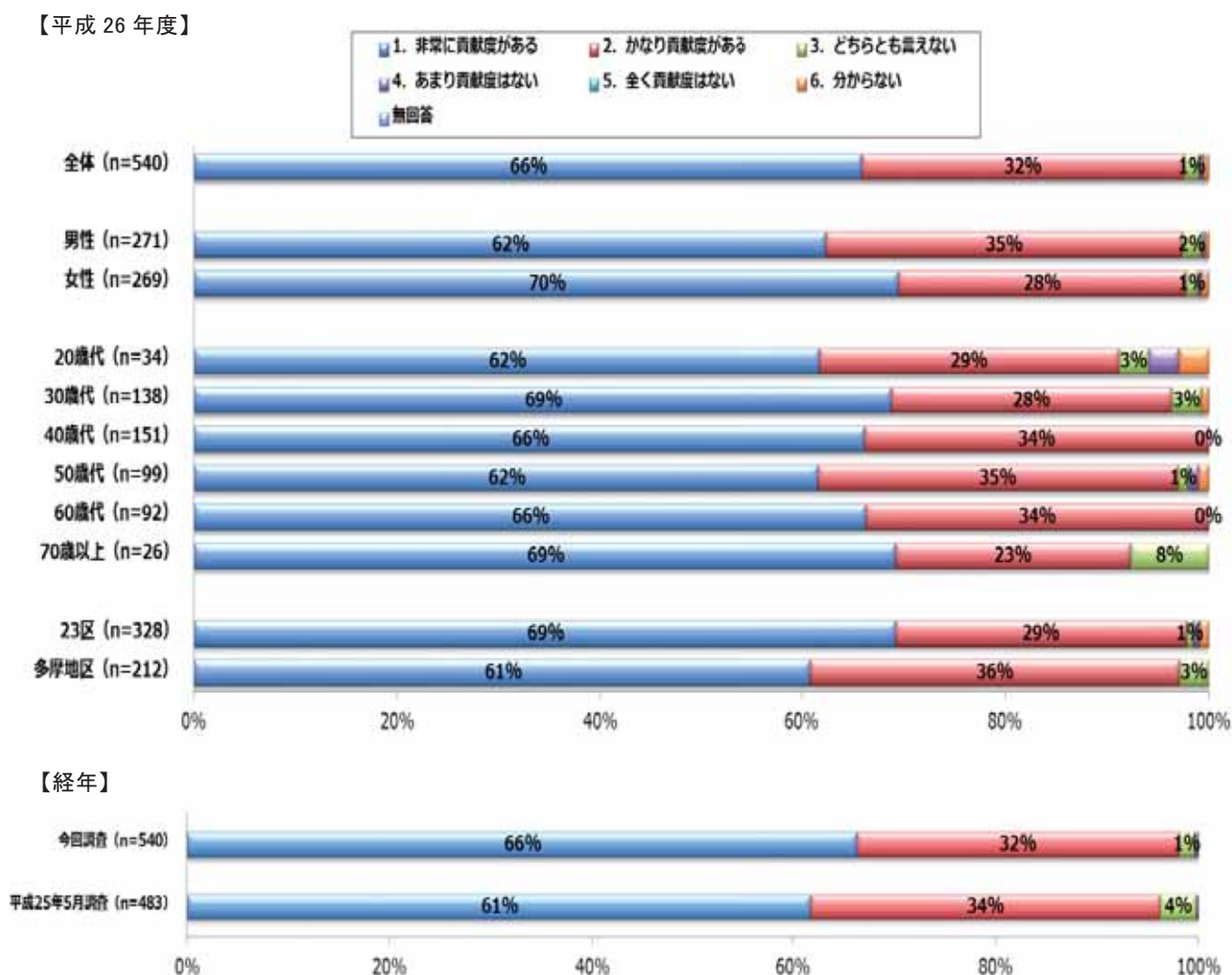


1-6. 下水道の役割「浸水防除」の社会的貢献度

- 全体では「非常に貢献度がある」との回答が多く 66%となった。
- 男女別にみると、「非常に貢献度がある」との回答は男性で 62%、女性は 70%となり、女性の方が男性よりも 8ポイント高くなった。
- 年代別にみると、30歳代と70歳以上が 69%と最も多くなり、次いで40歳代と60歳代が 66%となった。
- 地域別にみると、23区 69%、多摩地区 61%となり、23区が 8ポイント高くなった。
- 昨年度との経年変化をみると、「非常に貢献度がある」との回答は、平成 25 年度は 61%であり、5ポイント高くなった。

Q10. 浸水防除の役割は、我々の生活にとってどのくらい社会的な貢献度が高いと思われますか？以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選び下さい（単一回答）。

図 1-6 「浸水防除」に対する社会的貢献度



2. 下水道の課題

2-1. 下水道の課題①「下水道管の老朽化」(認知度)

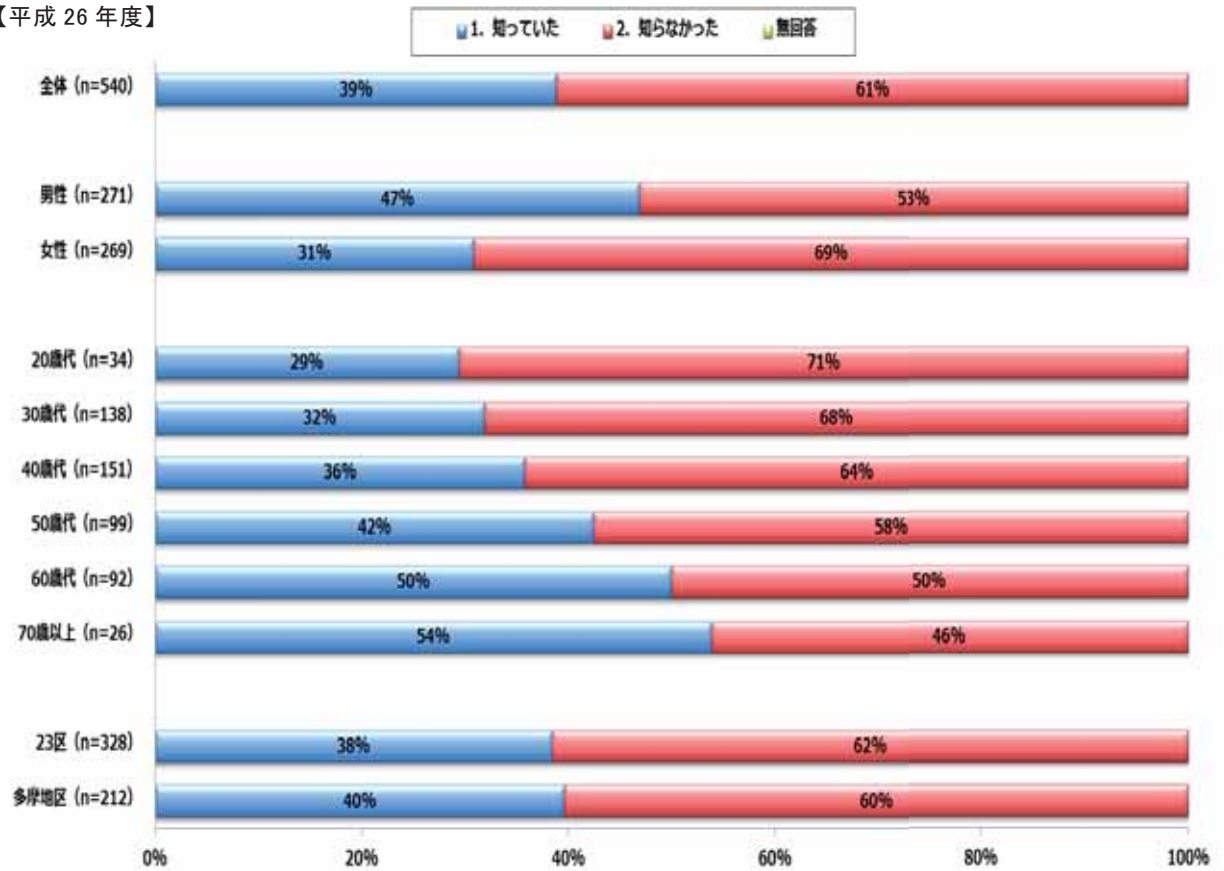
- 全体では「知っていた」が39%となり半数以下であった。
 - 男女別にみると、「知っていた」との回答は男性が47%であり、女性31%となった。男性の方が女性よりも16ポイント高くなった。
 - 年代別にみると、年代が上がるにつれて「知っていた」との回答が多くなる。
 - 地域別にみると「知っていた」との回答が23区で38%、多摩地区で40%となり、23区が2ポイント高くなった。
 - 過去5年間の経年変化をみると、「知っていた」との回答は平成22年度調査では42%で、3ポイント低かった。
-

Q11. 下水道管は、耐用年数が50年とされており、古い下水道管は道路の陥没事故につながるため、取替えや補修が必要です。東京都の下水道は整備を始めてから既に100年以上が経過し、現在でも一部の下水道管は耐用年数を越えています。また、高度経済成長期以降(1960年代以降)に整備した大量の下水道管が間もなく耐用年数に達しようとしています。

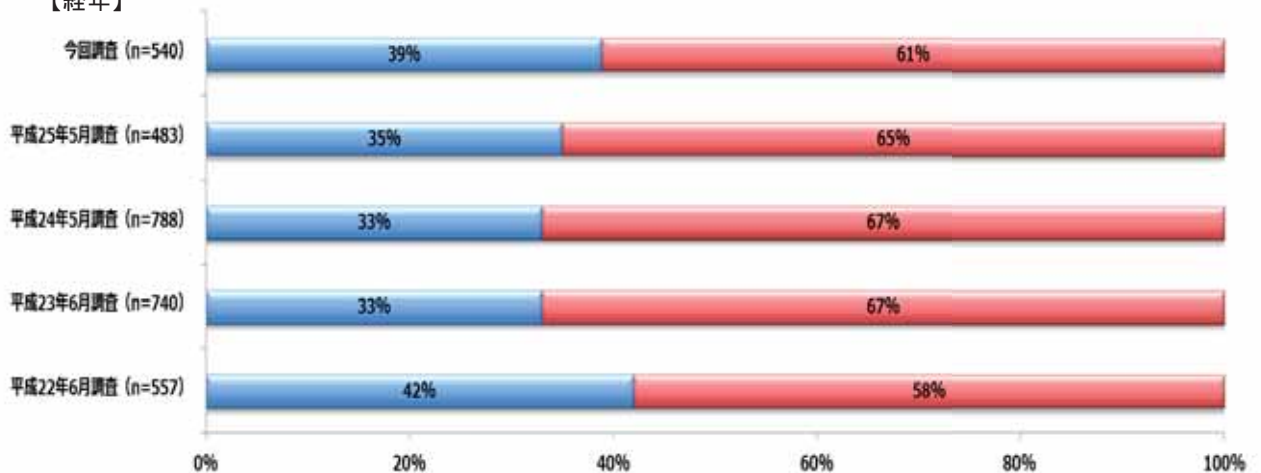
あなたは、このことをご存知でしたか? 以下の中から該当する選択肢を一つだけお答え下さい(単一回答)。

図 2-1 「下水道管の老朽化」の認知度

【平成 26 年度】



【経年】



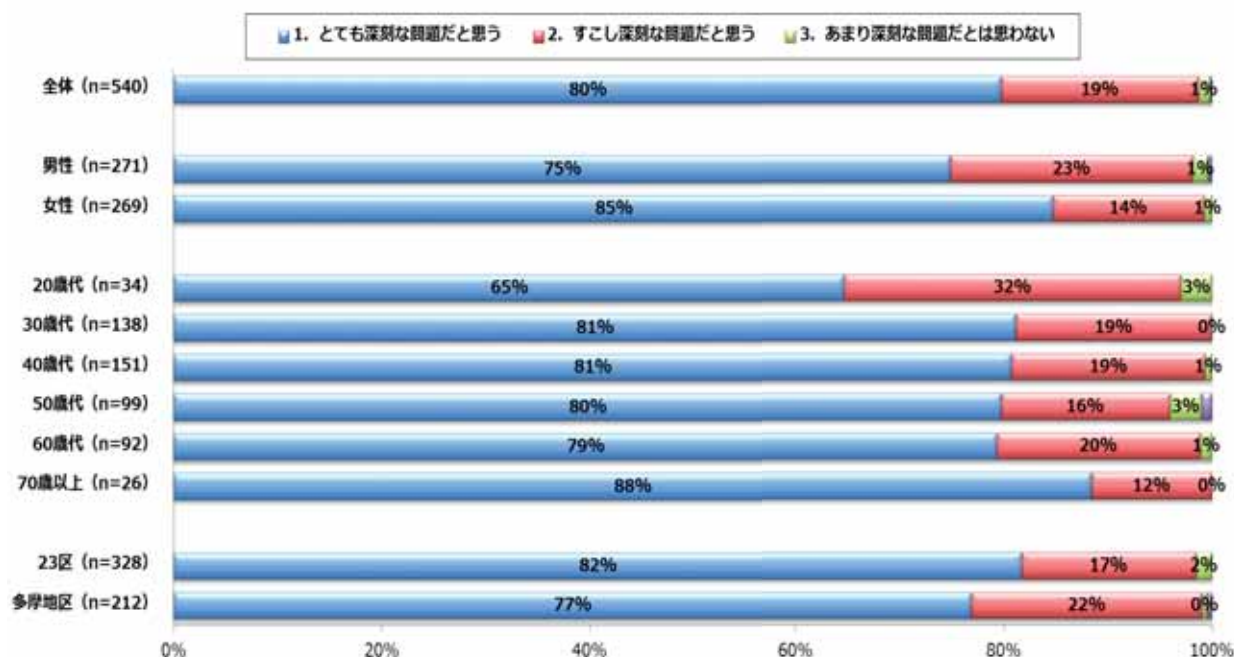
2-2. 下水道の課題①「下水道管の老朽化」(感想)

- 全体では 99%が「深刻な問題である（とても深刻な問題だと思う+すこし深刻な問題だと思う）」と考えている。
- 男女別にみると、「とても深刻な問題だと思う」との回答は男性は 75%、女性は 85%となった。女性の方が男性よりも 10 ポイント高くなった。
- 年代別にみると、「とても深刻な問題だと思う」との回答が最も少なくなるのは、20歳代で 65%、最も多くなったのは 70歳以上で 88%であった。
- 地域別にみると、「とても深刻な問題だと思う」との回答が 23区で 82%、多摩地区で 77%となり、23区が 4 ポイント高くなった。
- 過去 5 年間の経年変化をみると、「とても深刻な問題だと思う」との回答は平成 22 年度調査では 80%で、同ポイントとなった。

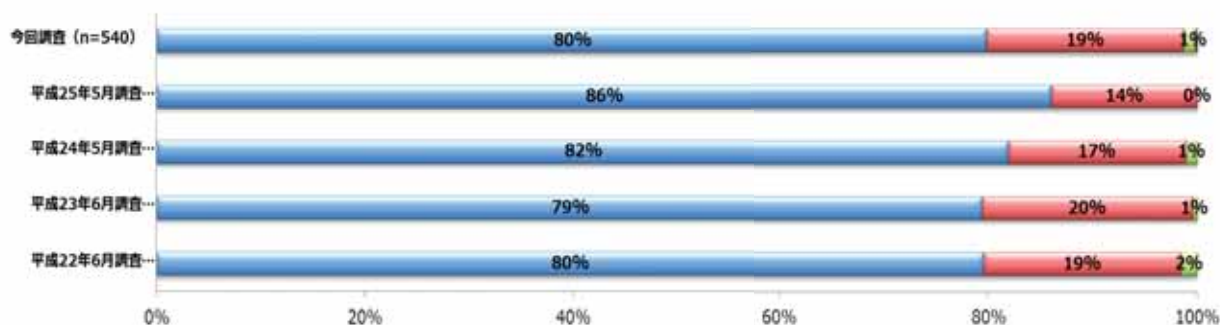
Q12. 下水道管の老朽化の内容について、どのようにお感じになりましたか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお答え下さい（単一回答）。

図 2-2 「下水道管の老朽化」に対する感想

【平成 26 年度】



【経年】



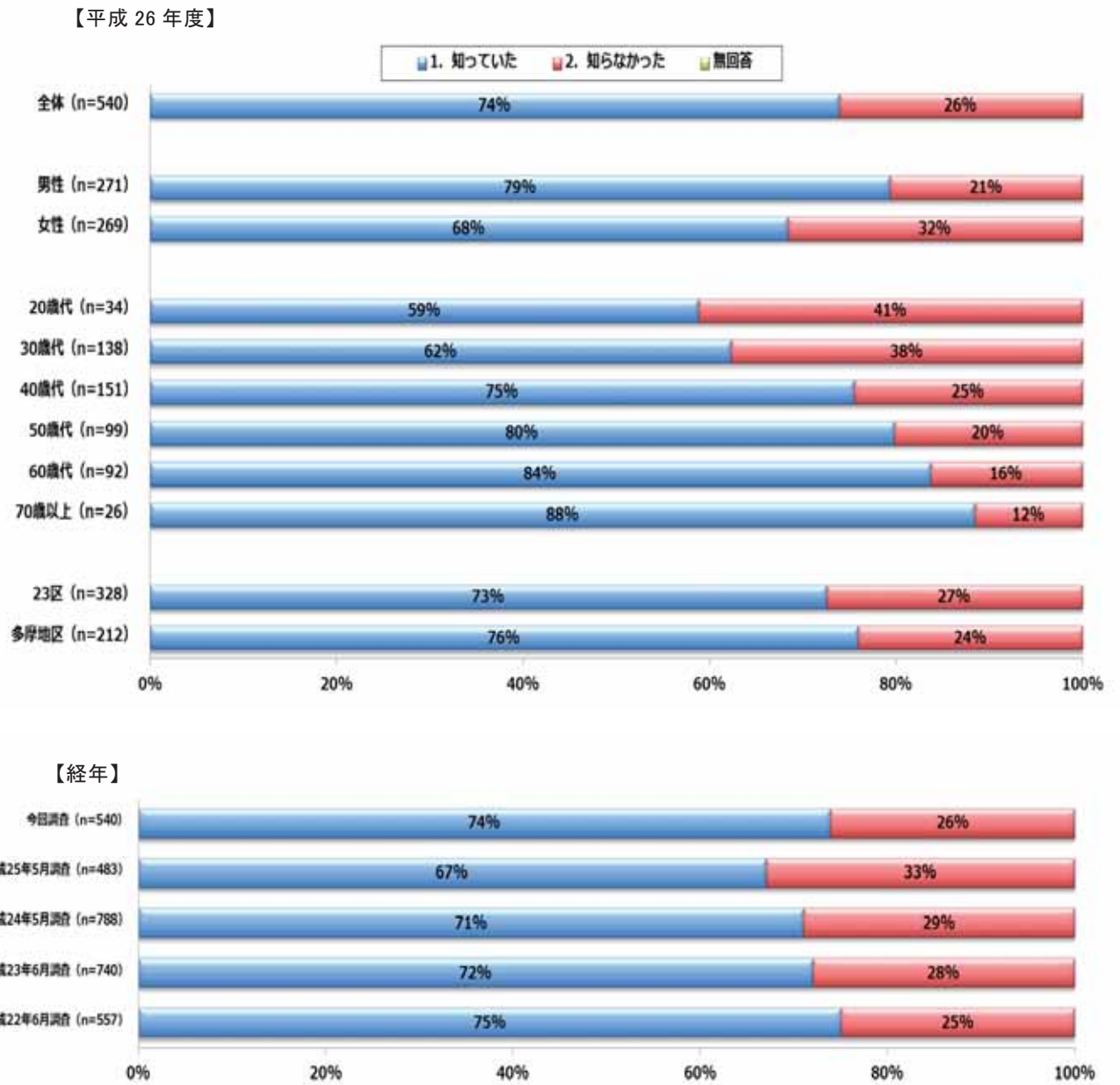
2-3. 下水道の課題②「都市型浸水対策」(認知度)

- 全体では「知っていた」との回答が多く74%となった。
- 男女別にみると、「知っていた」との回答は男性が79%、女性が68%となった。男性の方が女性よりも11ポイント高くなった。
- 年代別にみると年代が上がるにつれて「知っていた」との回答が多くなる。特に70歳以上は88%が「知っていた」と回答した。
- 地域別にみると、「知っていた」との回答が23区で70%、多摩地区で71%となり、多摩地区が1ポイント高くなった。
- 過去5年間の経年変化をみると、「知っていた」との回答は平成22年度調査では77%で、1ポイント低かった。

Q13. 近年、全国的に記録的な集中豪雨が頻発し、それに伴って土砂災害や浸水被害が発生しています。東京都においても、集中豪雨により、下水道管やポンプ所の処理能力を超えた雨水が下水道に流入し浸水被害が発生することがあります。

あなたは、このことをご存知でしたか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお答え下さい（単一回答）。

図 2-3 「都市型浸水対策」の認知度

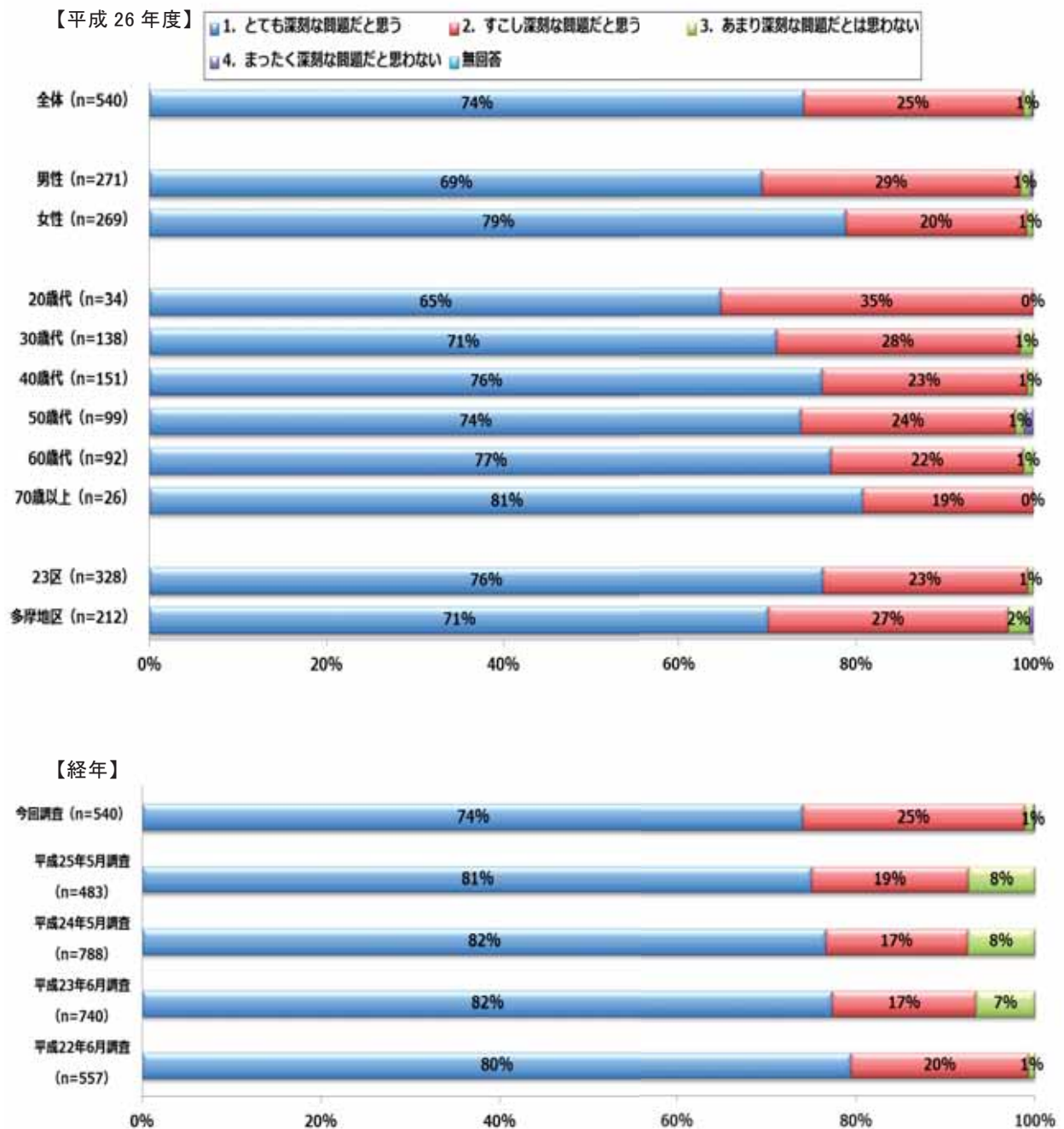


2-4. 下水道の課題②「都市型浸水対策」(感想)

- 全体では 99%が「深刻な問題である(とても深刻な問題だと思う+すこし深刻な問題だと思う)」と考えている。
 - 男女別にみると、「とても深刻な問題だと思う」との回答は男性が 69%であり、女性は、79%となった。女性の方が男性よりも 10 ポイント高くなった。
 - 年代別にみると、「とても深刻な問題だと思う」との回答が最も少なくなるのは、20 歳代で 65%、最も多くなったのは 70 歳代以上で 81%であった。
 - 地域別にみると、「とても深刻な問題だと思う」との回答が 23 区で 76%、多摩地区で 71%となり、23 区が 5 ポイント高くなった。
 - 過去 5 年間の経年変化をみると、「とても深刻な問題だと思う」との回答は平成 22 年度調査では 80%で、6 ポイント低くなった。
-

Q14. 浸水被害の内容について、どのようにお感じになりましたか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお答え下さい(単一回答)。

図2-4 「都市型浸水対策」に対する感想



2-5. 下水道の課題③「合流式下水道の改善」（認知度）

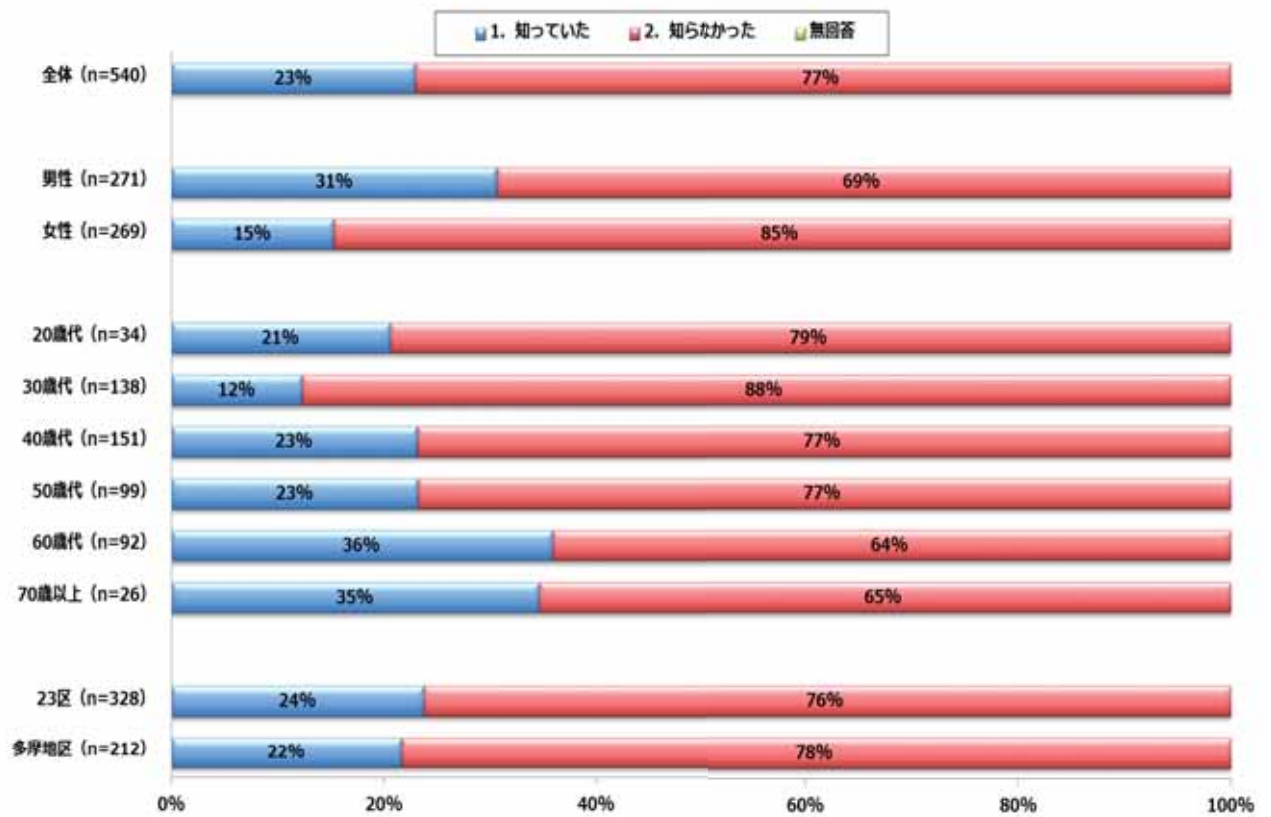
- 全体では「知っていた」が23%となり半数以下となった。
 - 男女別にみると、「知っていた」との回答は男性が31%、女性は15%となった。男性の方が多く、女性よりも16ポイント高くなった。
 - 年代別にみると30歳代以降、年代が上がるにつれて「知っていた」との回答が多くなる。ただし、30歳代は12%であり20歳代の21%よりも9ポイント低くなった。
 - 地域別にみると、「知っていた」との回答が23区で24%、多摩地区で22%となり、23区が2ポイント高くなった。
 - 過去5年間の認知度の経年変化をみると、「知っていた」との回答は平成22年度調査では23%で、同ポイントとなった。
-

Q15. 東京都の下水道は、主に「合流式下水道」と呼ばれる、汚水と雨水が同じ下水道管を流れる方式で整備されています。この方式は、大雨が降ると下水の水量が一気に増大するため、水再生センターに流入する前に河川へ放流せざるを得なくなり、雨水で薄まった汚水の一部が、そのまま河川に流れてしまうということが起こります。

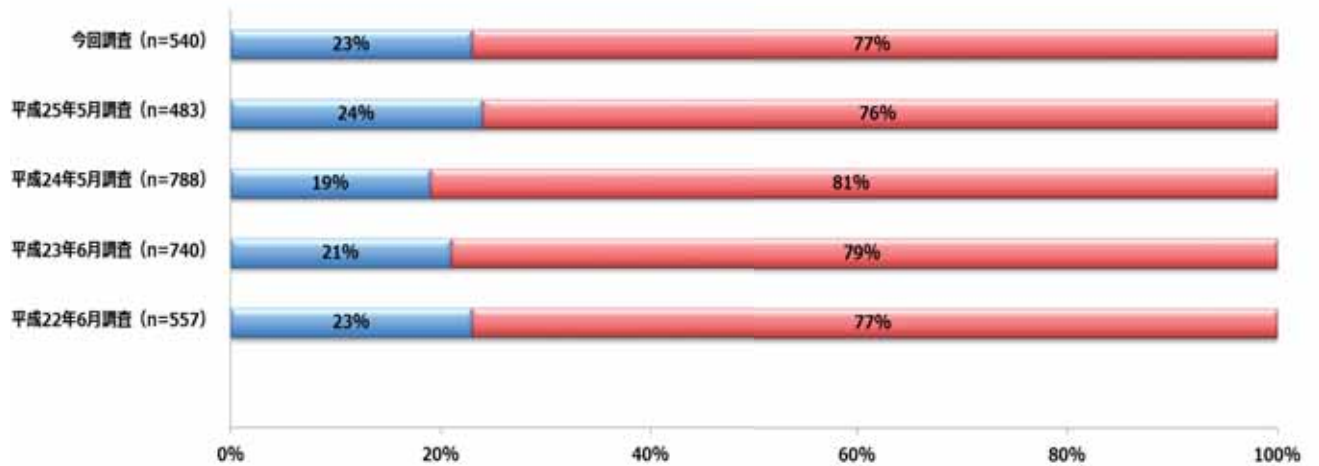
あなたは、このことをご存知でしたか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお答え下さい（単一回答）。

図2-5 「合流式下水道」の認知度

【平成26年度】



【経年】



2-6. 下水道の課題③「合流式下水道の改善」（感想）

- 全体では 97%が「深刻な問題である（とても深刻な問題だと思う＋すこし深刻な問題だと思う）」と考えている。
- 男女別にみると、「とても深刻な問題だと思う」との回答は男性が 56%、女性が 66%となった。女性の方が男性より 9 ポイント高くなった。
- 年代別にみると、「深刻な問題だと思う」との回答が最も少なくなるのは 50 歳代であり 57%となった。また、60 歳代を除いた世代で 62%となった。
- 地域別にみると、「とても深刻な問題だ」との回答が 23 区、多摩地区ともに 68%となった。
- 過去 5 年間の深刻度の経年変化をみると、「とても深刻な問題だ」との回答は平成 22 年度調査では 66%で、5 ポイント低くなった。

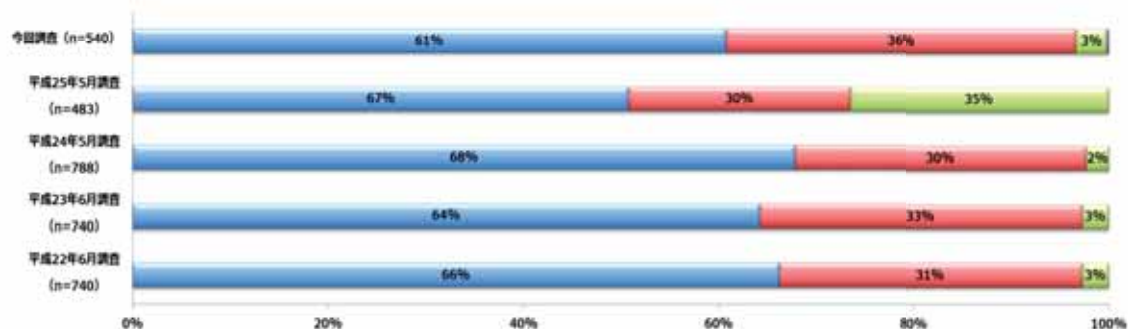
Q16. 合流式下水道の内容について、どのようにお感じになりましたか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお答え下さい（単一回答）。

図 2-6 「合流式下水道」に対する感想

【平成 26 年度】



【経年】



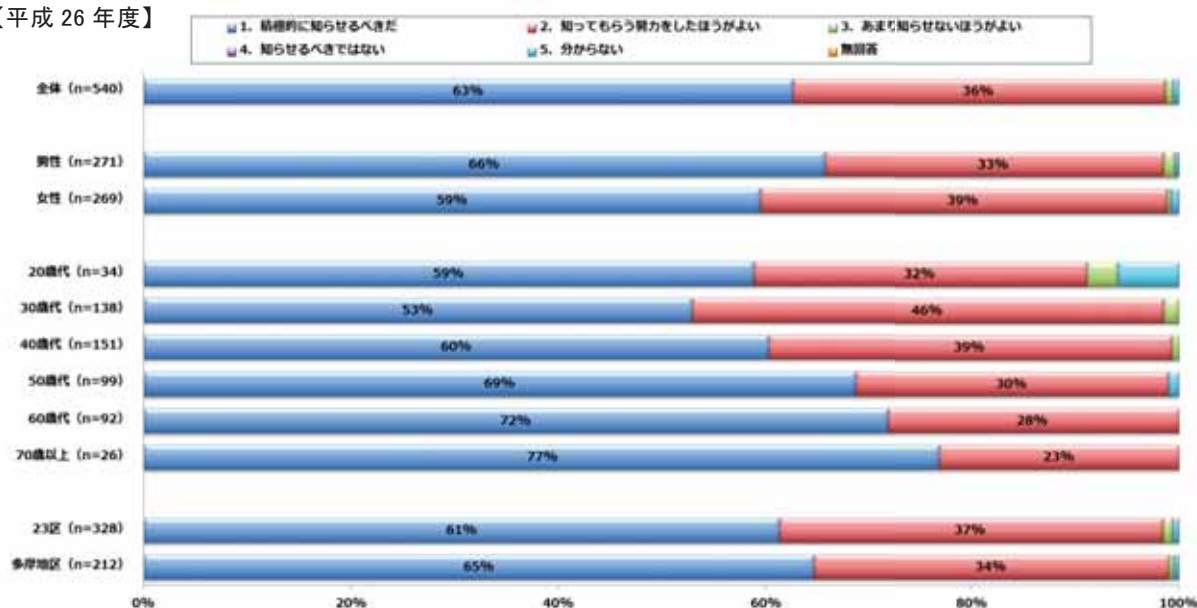
2-7. 下水道が抱える課題の公表について

- 東京都の下水道が抱える課題の公表の是非についてみる。全体では 63%が「積極的に知らせるべきだ」と思っている。
- 男女別にみると、「積極的に知らせるべきだ」との回答は男性 66%、女性 59%となり、男性が7ポイント高くなった。
- 年代別にみると、30歳代で20歳代よりも落ち込むが、年代が上がるにつれて「積極的に知らせるべきだ」との回答が多くなる。なお、最も少ないのは30歳代の53%であり、最も多いのは70歳以上の77%であった。
- 地域別にみると、「積極的に知らせるべきだ」との回答が23区では61%、多摩地区で65%となり、多摩地区が4ポイント高くなった。
- 下水道が抱える課題の公表の是非の経年変化をみると、「積極的に知らせるべきだ」との回答は平成22年度調査と比較して、2ポイント低くなった。

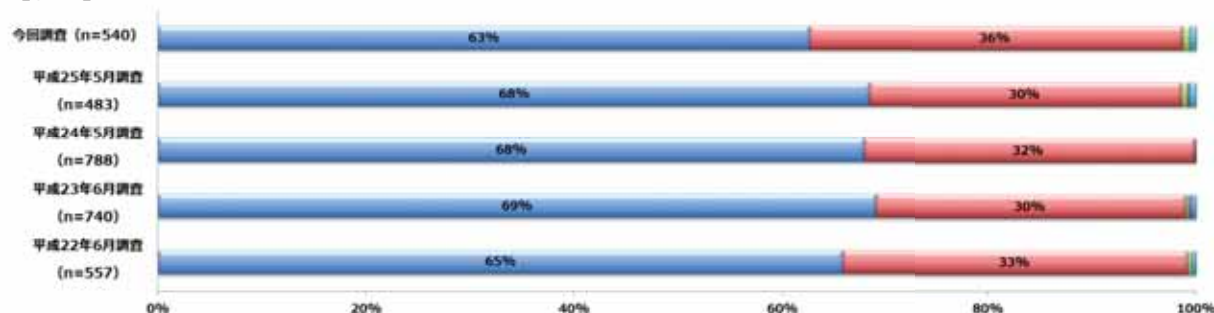
Q17. 上記Q11、Q13、Q15でおうかがいした、東京都の下水道における課題について、以下の中から該当する選択肢を一つだけお答え下さい（単一回答）。

図2-7 課題の公表についての是非

【平成26年度】



【経年】



3. 新たな事業活動の認知度と社会的貢献度評価

3-1. 新たな事業活動の認知度

- 新たな事業活動の認知度をみると、「7)高度処理技術の開発・導入」39%、「3)下水汚泥をセメントなどの原料とする資源化への取組」31%と他の事業活動よりも高くなった。
- 男女別にみると、ほとんどの事業で男性の方が「知っていた」と回答する傾向が高くなった。
- 男女別に最も高くなった事業活動をみると、男性では「2)水再生センターを避難場所や上部を公園として利用」68%、「1)きれいにした再生水をビルのトイレ用水や車両洗浄に利用」が男性67%、女性62%となった。
- 地域別にみると、23区、多摩地区ともに「1)きれいにした再生水をビルのトイレ用水や車両洗浄に利用」が最も高くなり、23区が65%、多摩地区が63%となった。
- 年代別にみると、50歳代を除き、全ての年代において、「1)きれいにした再生水をビルのトイレ用水や車両洗浄に利用」が他の事業活動よりも高くなった。50歳代の場合、「2)水再生センターを避難場所や上部を公園として利用」が最も高く70%となった。

Q18. 東京都下水道局が行っている新たな活動や取組についてうかがいます。以下のそれぞれの項目について、あなたはこのことをご存知でしたか？該当する選択肢を一つだけお選び下さい（単一回答）。

図3-1（1）新たな事業活動の認知度

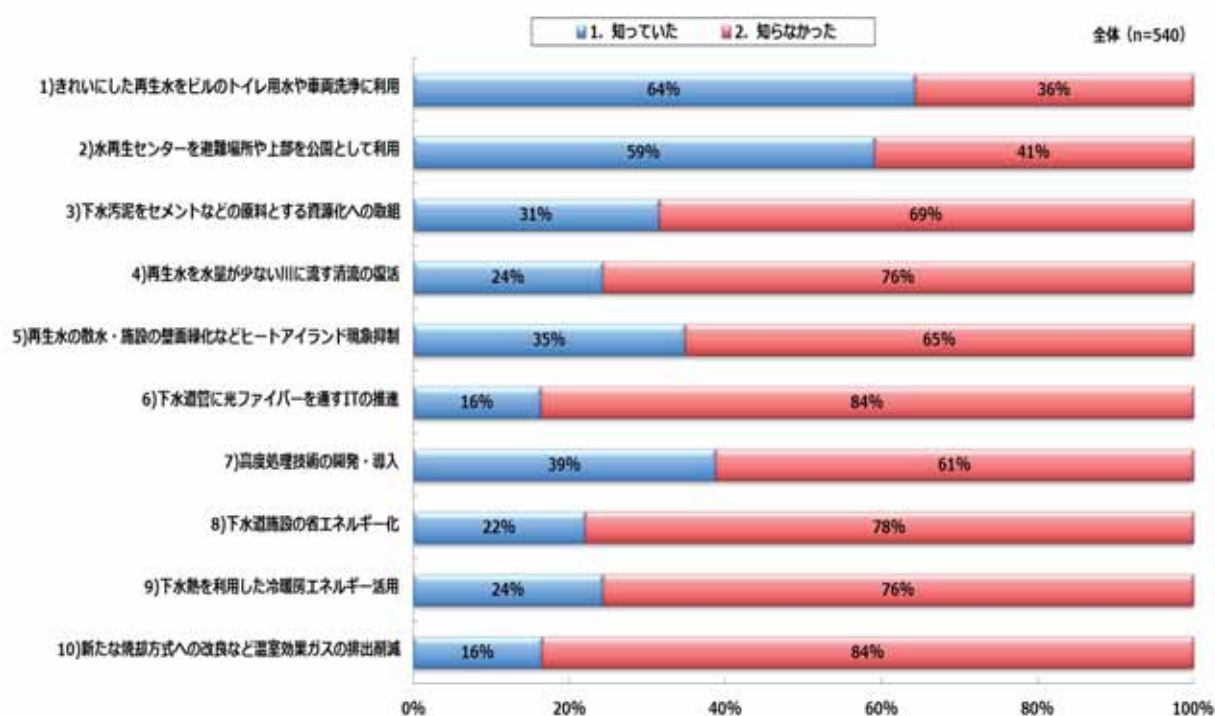
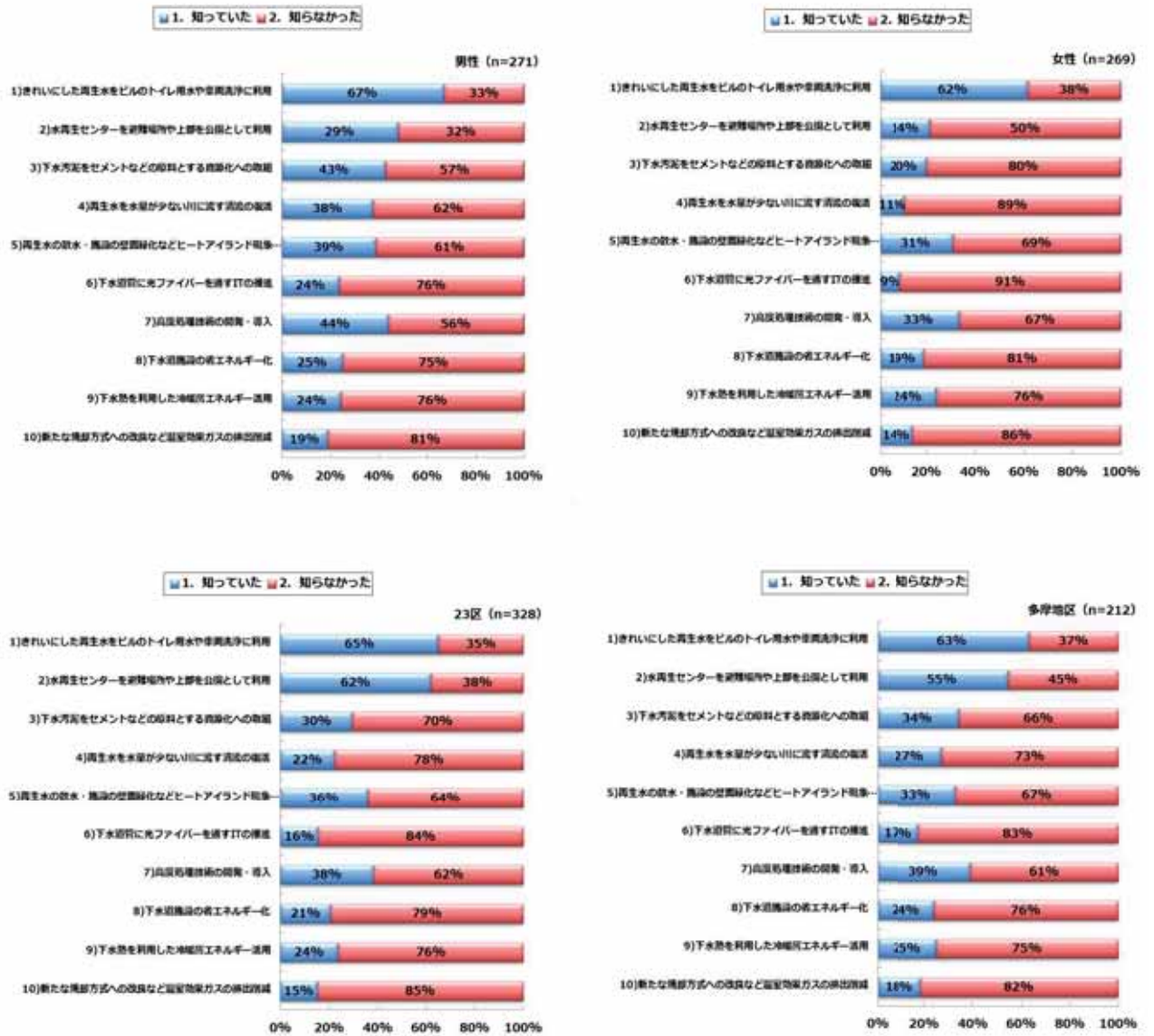


図3-1 (2) 新たな事業活動の認知度〔性別・地域別・年代別〕



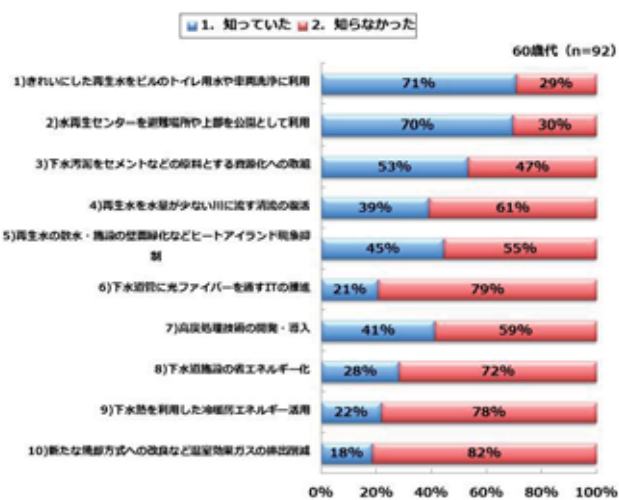
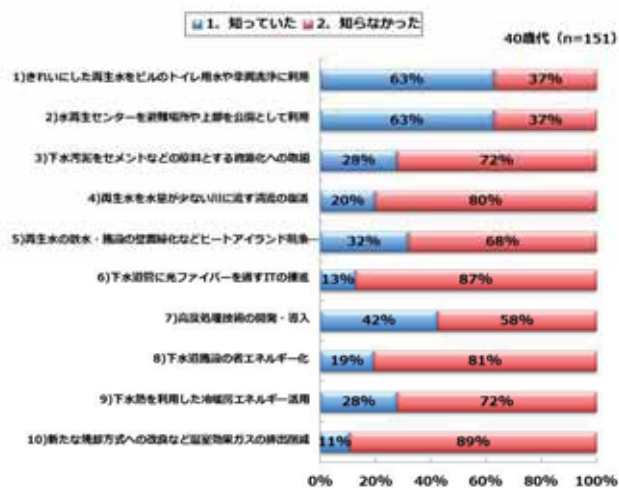
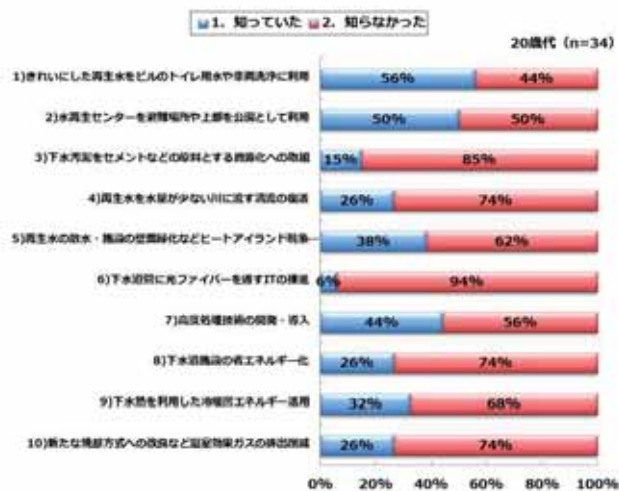
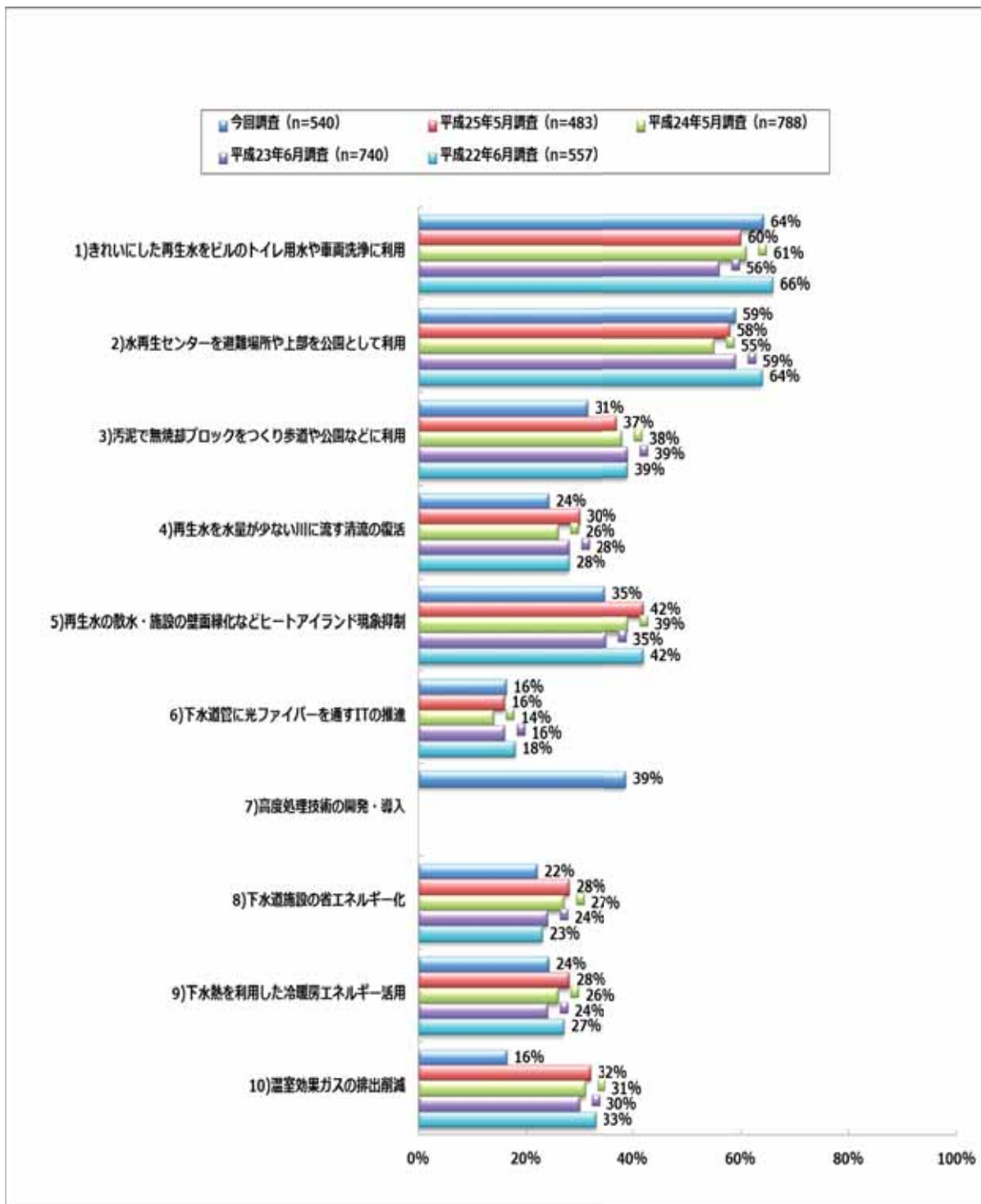


図3-1 (3) 新たな事業活動の認知度〔経年比較〕



3-2. 新たな事業活動の社会的貢献度

- 各事業活動をみると、全体では「6)下水道管に光ファイバーを通す IT の推進」を除き、80%以上が「役立っている（非常に役立っている+かなり役立っている）」と評価している。もっとも高く評価されているのは「1)きれいにした再生水をビルのトイレ用水や車両洗浄に利用」で、「6)下水道管に光ファイバーを通す IT の推進」は 27%であった。
- 「非常に役立っている」との回答が多くなった順に上位 3 位まで見ると、「1)きれいにした再生水をビルのトイレ用水や車両洗浄に利用」は 50%、次いで「5)再生水の散水・施設の壁面緑化などヒートアイランド現象抑制」42%、「7)高度処理技術の開発・導入」「8)下水道施設の省エネルギー化」「10)温室効果ガスの排出削減」がともに 41%となった。

Q19. これら東京都下水道局が行っている新たな活動や取組について、以下のそれぞれの項目について、あなたはどの程度「社会的に役立っている」と思われますか？該当する選択肢を一つだけお選び下さい（単一回答）。

図3-2（1）新たな事業活動の社会的貢献度

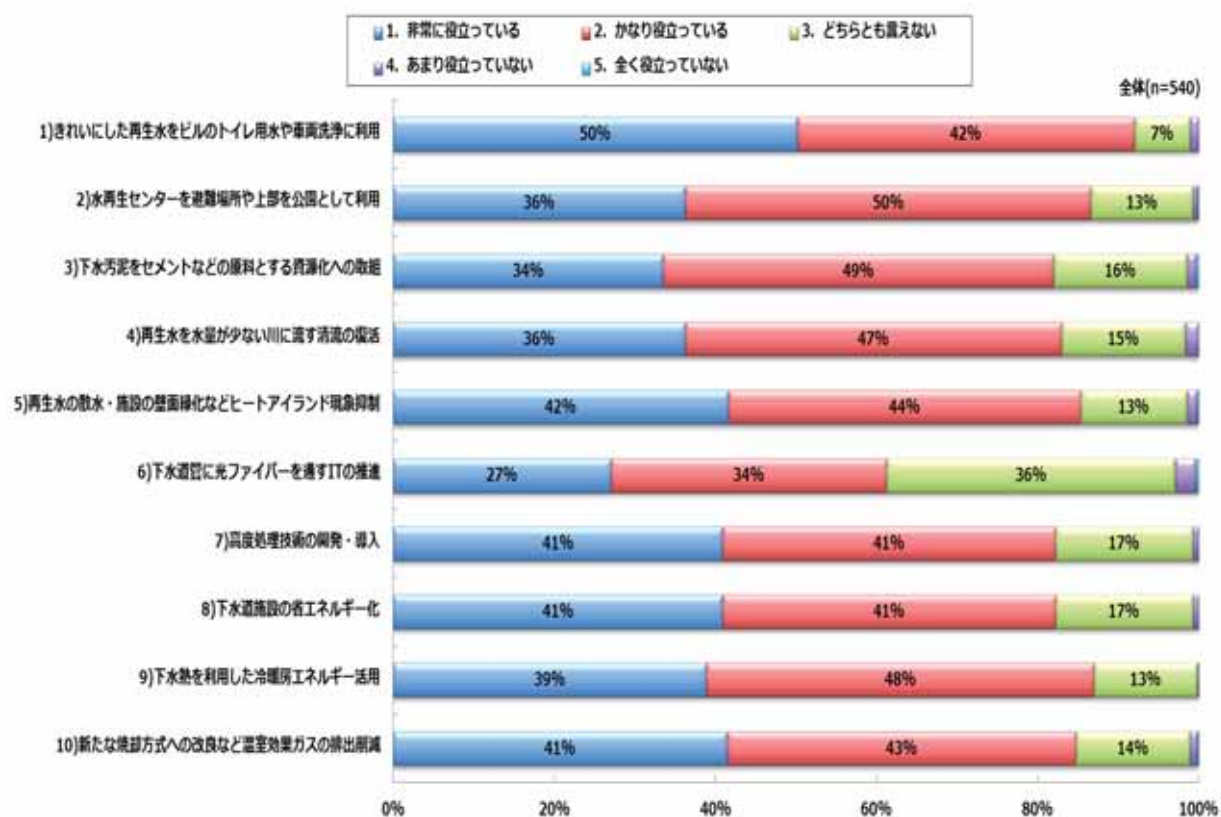
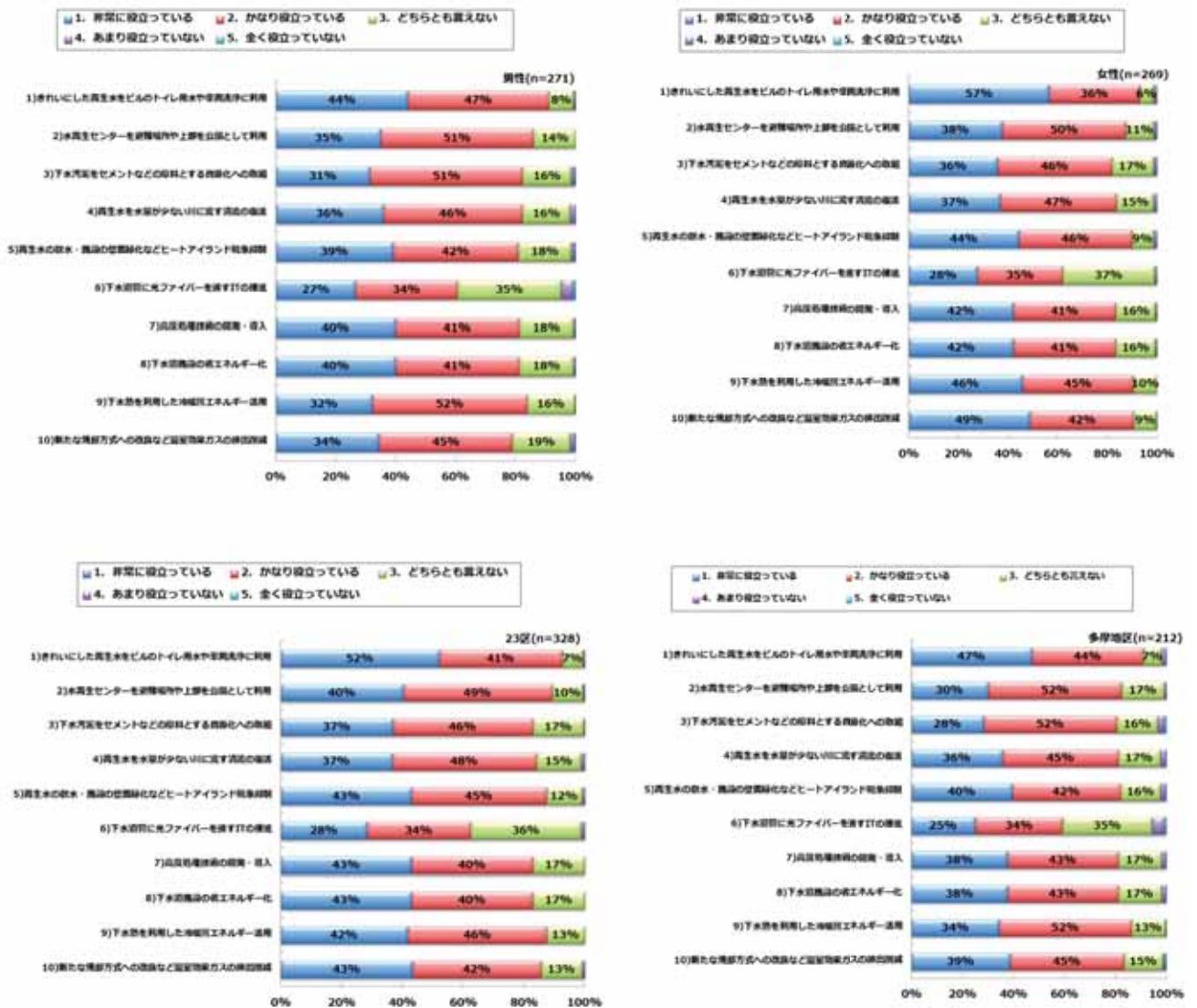
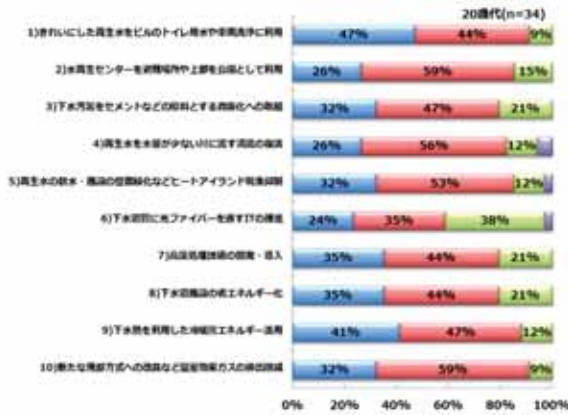


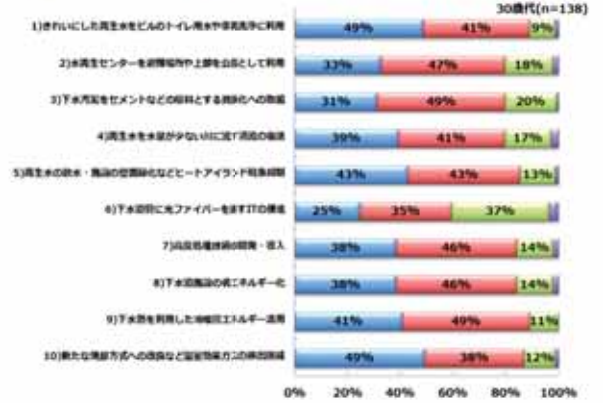
図3-2 (2) 新たな事業活動の社会貢献度〔性別・地域別・年代別〕



1. 非常に役立っている 2. かなり役立っている 3. どちらとも異なる
4. あまり役立っていない 5. 全く役立っていない



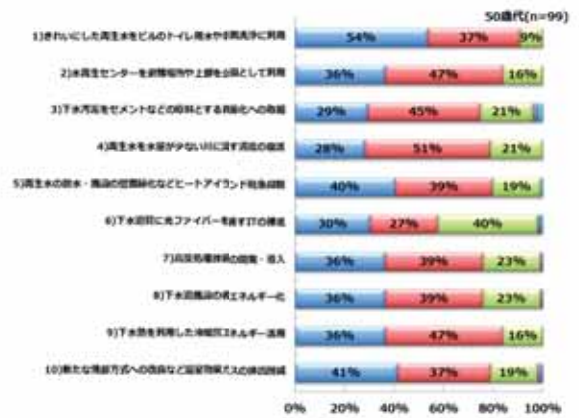
1. 非常に役立っている 2. かなり役立っている 3. どちらとも異なる
4. あまり役立っていない 5. 全く役立っていない



1. 非常に役立っている 2. かなり役立っている 3. どちらとも異なる
4. あまり役立っていない 5. 全く役立っていない



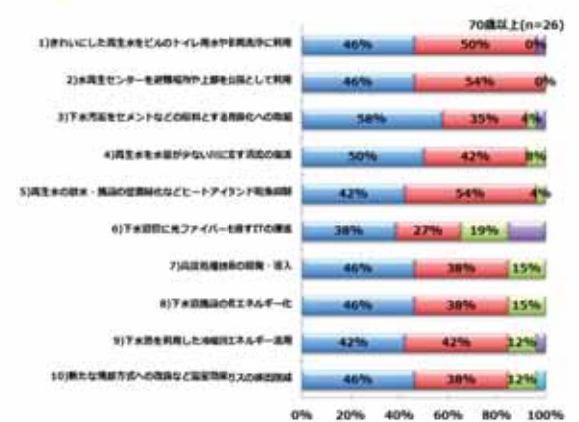
1. 非常に役立っている 2. かなり役立っている 3. どちらとも異なる
4. あまり役立っていない 5. 全く役立っていない



1. 非常に役立っている 2. かなり役立っている 3. どちらとも異なる
4. あまり役立っていない 5. 全く役立っていない



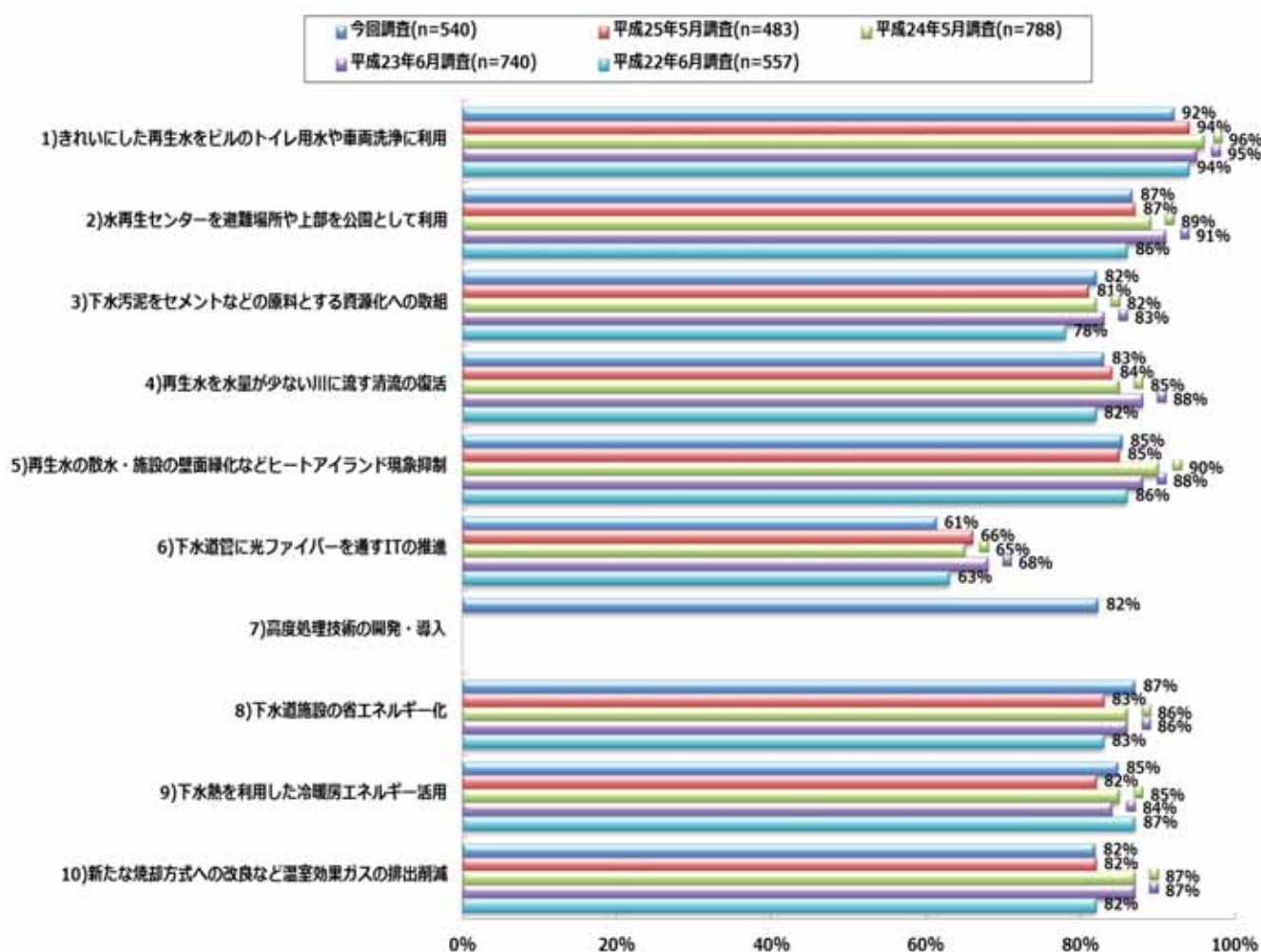
1. 非常に役立っている 2. かなり役立っている 3. どちらとも異なる
4. あまり役立っていない 5. 全く役立っていない



3-3. 東京都下水道局の新たな事業活動の貢献度〔経年比較〕

- 差が大きくなった順に上位3位までを示すと、「3)汚泥で無焼却ブロックをつくり歩道や公園などに利用」は22ポイントの差が生じた。以降、「9)下水熱を利用した冷暖房エネルギー活用」12ポイント差、「6)下水道管に光ファイバーを通すITの推進」18ポイント差、「10)温室効果ガスの排出削減」18ポイント差と続く。
- 今年度調査と5年前の平成22年度調査と比較して回答率が上昇した項目をみると、「2)水再生センターを避難場所や上部を公園として利用」「3)下水汚泥をセメントなどの原料とする資源化への取組」「4)再生水を水量が少ない川に流す清流の復活」「8)下水道施設の省エネルギー化」の項目において回答率が高くなった。

図3-3 東京都下水道局の新たな事業活動の貢献度〔経年比較〕



※選択肢7)は平成26年度調査より「高度処理技術の開発・導入」に変更

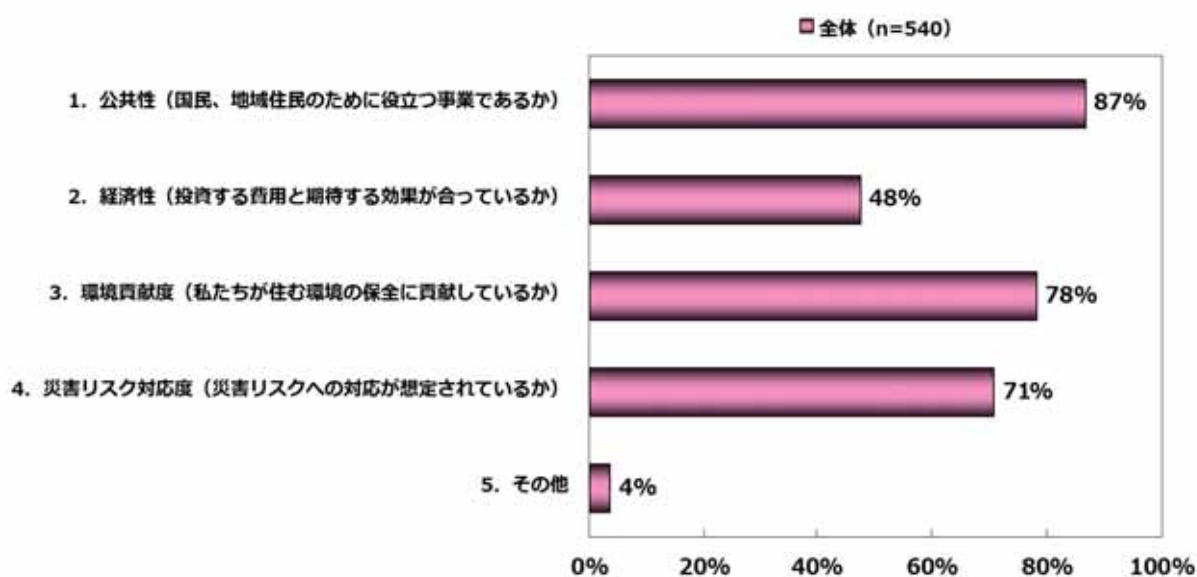
4. 下水道事業の評価基準

4-1. 下水道事業を評価する基準〔全体〕

- 全体では「1. 公共性（国民、地域住民のために役立つ事業であるか）」が 87%と最も多い。以降、「3. 環境貢献度（私たちが住む環境の保全に貢献しているか）」78%、「4. 災害リスク対応度（災害リスクへの対応が想定されているか）」71%と続く。さらに、少し値に差があいて、「2. 経済性（投資する費用と期待する効果が合っているか）」49%となった。
- この結果、下水道事業は「1. 公共性」「3. 環境貢献度」「4. 災害リスク対応度」が重視されていることがわかる。
- 平成25年度調査と比べて高くなったのは「1. 公共性」「2. 経済性」であった。

Q20. あなたが下水道事業を評価する基準で重視しているのは、どのようなことですか？以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお選び下さい（複数回答）。

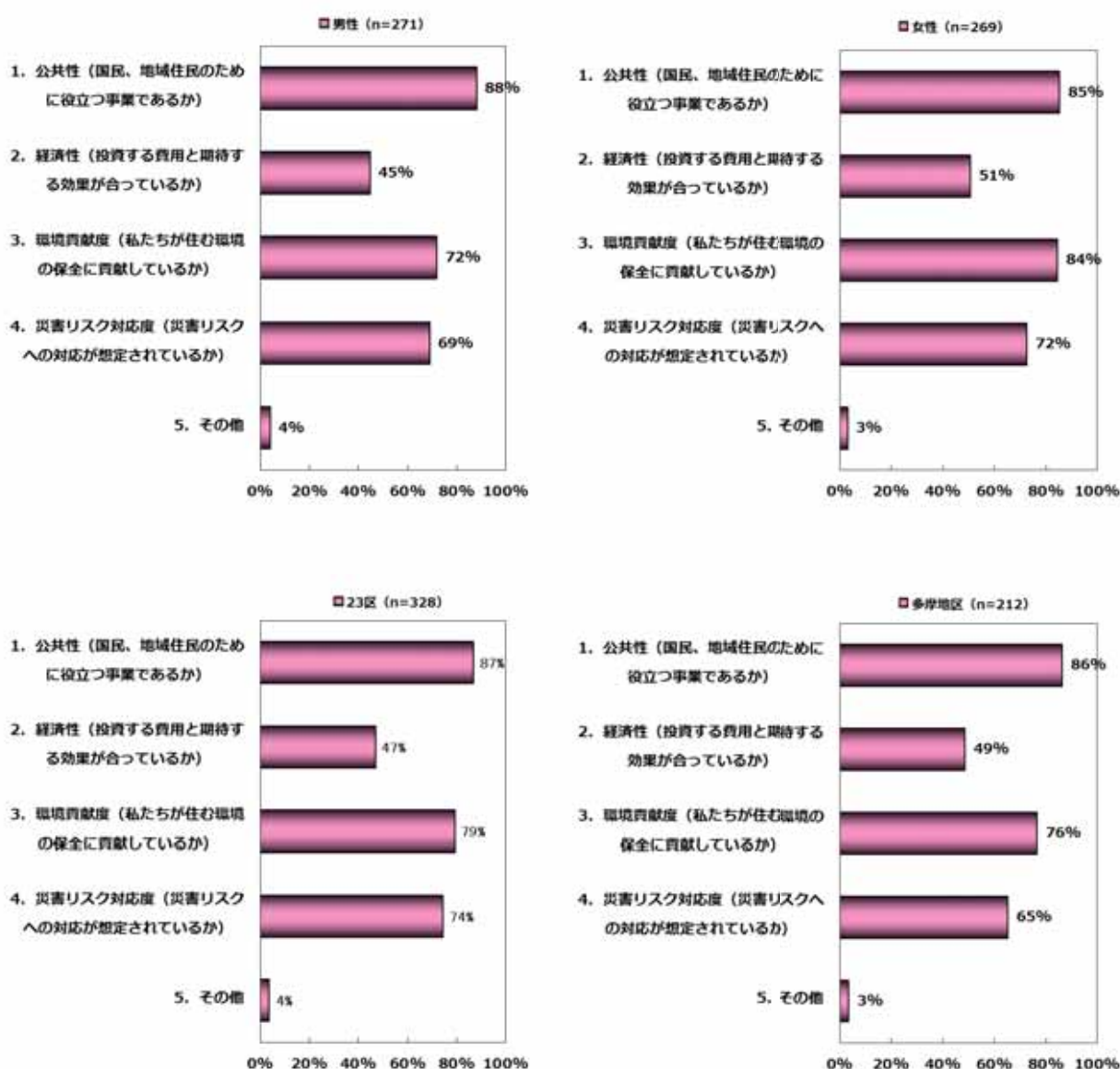
図4-1 下水道事業を評価する基準〔全体〕



4-2. 下水道事業を評価する基準〔性別・地域別〕

- 男女別にみると、男女ともに「1. 公共性（国民、地域住民のために役立つ事業であるか）」が最も多くなった（男性は88%、女性は85%）、次いで男女とも「3. 環境貢献度（私たちが住む環境の保身に貢献しているか）」（男性は72%、女性は84%）、「4. 災害リスク対応度（災害リスクへの対応が想定されているか）」（男性は69%、女性は72%）となった。
- 地域別にみると23区は、「1. 公共性（国民、地域住民のために役立つ事業であるか）」「3. 環境貢献度（私たちが住む環境の保身に貢献しているか）」「4. 災害リスク対応度（災害リスクへの対応が想定されているか）」の項目において、多摩地区よりも回答が多くなった。

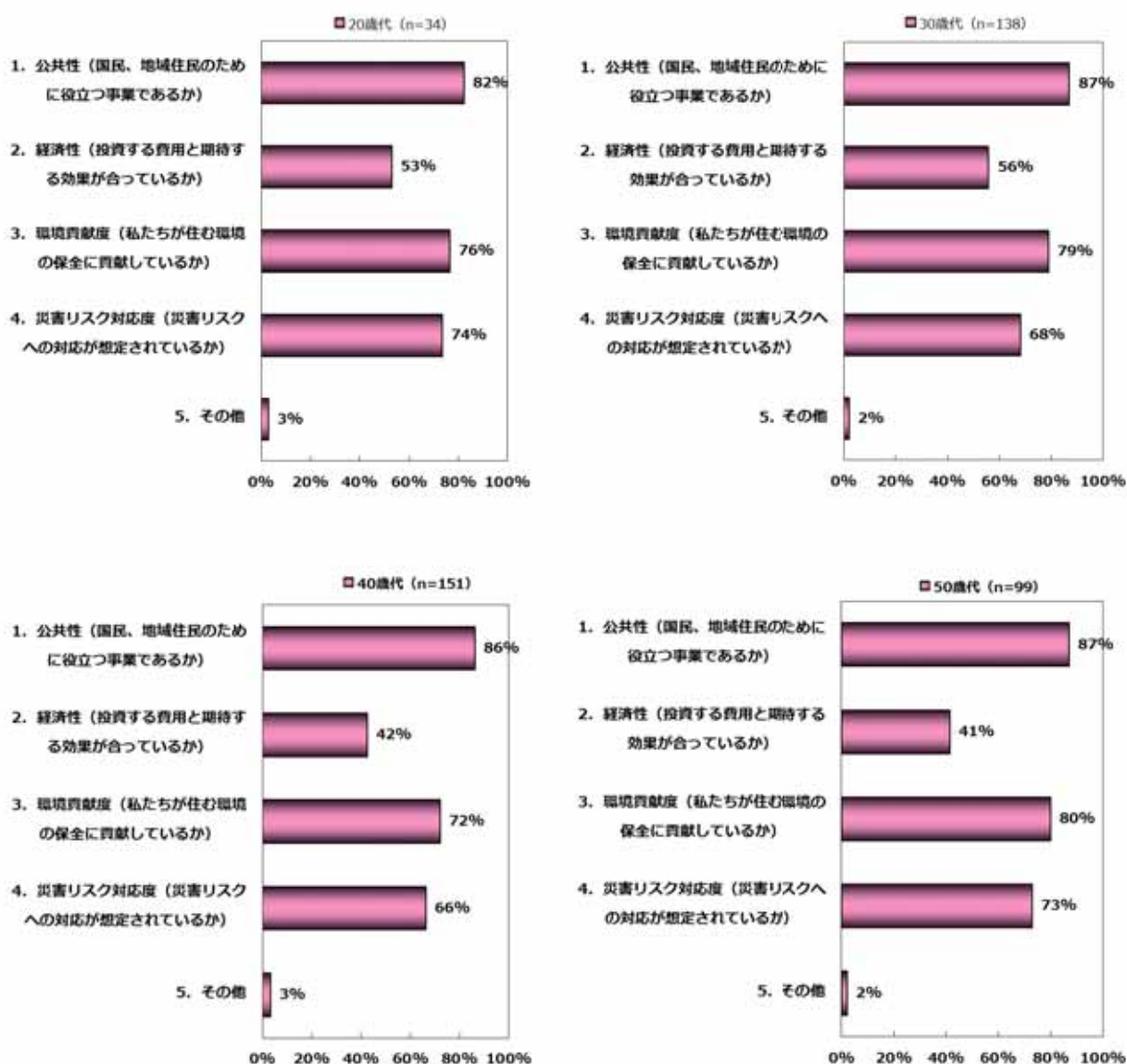
図4-2 下水道事業を評価する基準〔性別・地域別〕

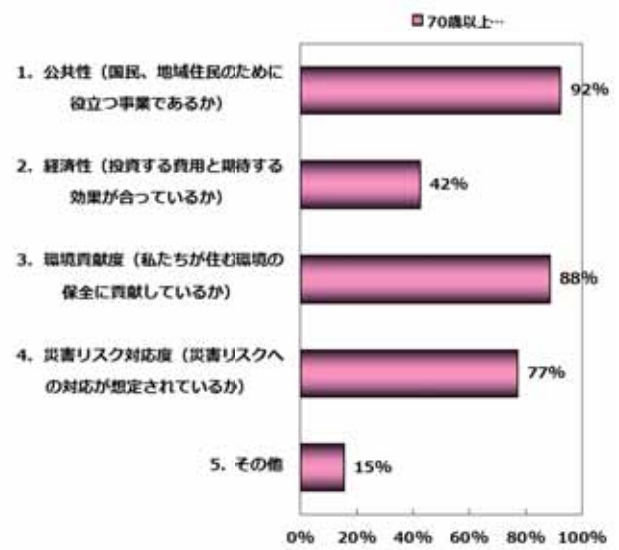
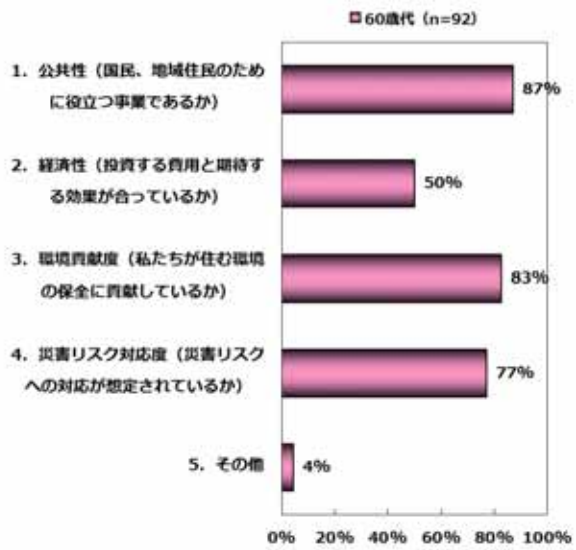


4-3. 下水道事業を評価する基準〔年代別〕

- 全体で最も回答が多くなった「1. 公共性（国民、地域住民のために役立つ事業であるか）」に注目すると、回答も多くなった順に、70歳以上 92%、30歳代、50歳代、60歳代 87%、40歳代が 86%となった。
- 「1. 公共性（国民、地域住民のために役立つ事業であるか）」以外の項目について最も回答が多くなった年代をみる。「2. 経済性（投資する費用と期待する効果が合っているか）」は 30歳代が 56%、「3. 環境貢献度（私たちが住む環境の保全に貢献しているか）」は 70歳以上が 88%、「4. 災害リスク対応度（災害リスクへの対応が想定されているか）」は 60歳代と 70歳以上で 77%となった。

図4-3 下水道事業を評価する基準〔年代別〕





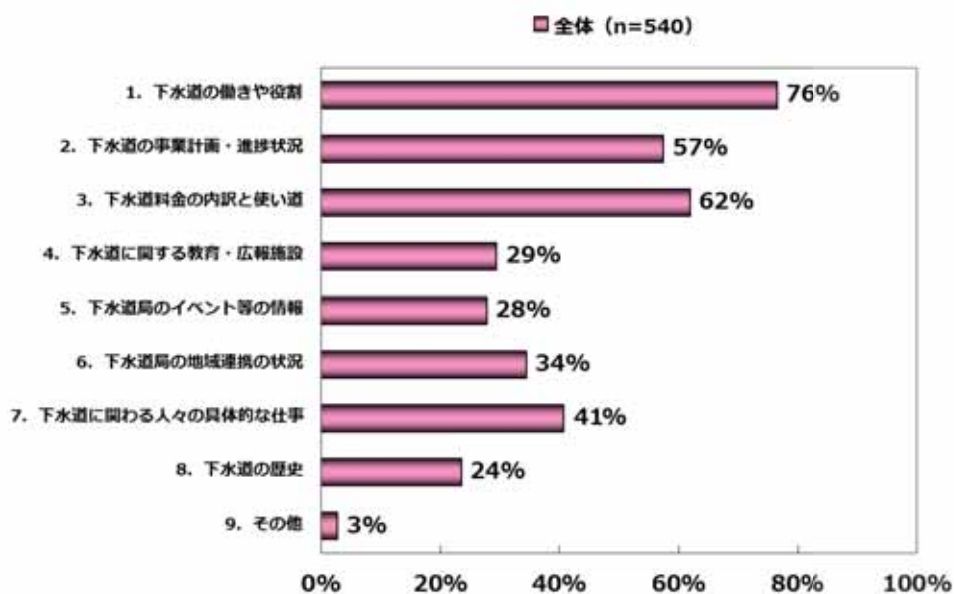
5. 下水道に関するニーズ

5-1. 下水道に関して知りたいと思うこと〔全体〕

- 下水道事業について知りたいことをみる。全体では「2. 下水道の働きや役割・貢献内容」との回答が 76%と最も多い。次いで「3. 下水道料金の内訳と使い道」62%となった。上記2つよりは少なくなるが、「7. 下水道に関わる人々の具体的な仕事」も 41%と多い。
- 平成 24 年度調査と比べると、「4. 下水道に関する教育・啓発施設（資料館等）について」は上昇したものの、ほかの項目では下降した。

Q21. 下水道事業について、あなたが知りたいと思うことはどのようなことですか？以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお答え下さい（複数回答）。

図5-1 下水道に関して知りたいと思うこと〔全体〕



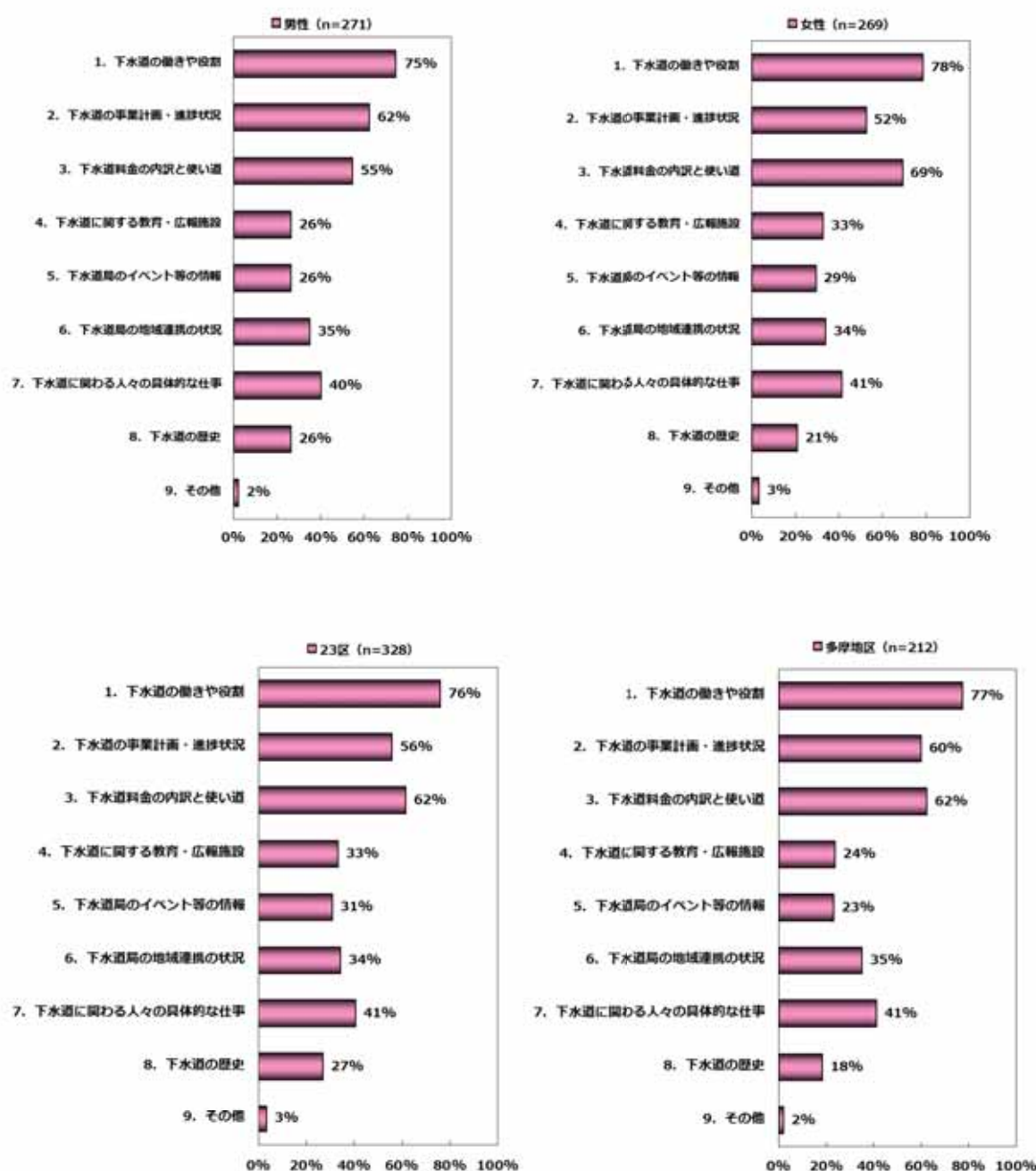
***** 【その他の回答】(今回調査) *****
※カッコ内は回答件数を示す

1. 50年100年先の構築計画
2. 老朽化した下水道の更新進捗情報
3. 下水道役割の将来展望
4. 下水道に係わる技術供用のグローバル化に関する現状と将来性
5. 諸外国と日本の下水道事業の類似点、相違点など
6. 本アンケートで知ることができた諸問題と取り組み
7. 地下トンネル等の見学(2)
8. 有効性と効果
9. 地域で長期間行われている下水工事の工期とその必要性
10. 工場からの処理
11. 河川や海への配慮事項
12. 施策の決定過程
13. 私達の暮らしに欠かせない下水道が更に社会に貢献できる可能性に関してとても興味がある
14. 水質に関して

5-2. 下水道に関して知りたいと思うこと〔性別・地域別〕

- 男女別にみると、「2. 下水道の事業計画・進捗状況」「6. 下水道局の地域連携の状況」「8. 下水道の歴史」を除いた全ての項目において女性の方が多く回答している。
- 地域別にみると、最も回答が多い「1. 下水道の働きや役割」は 23 区は 76%、多摩地区では 77%となり、多摩地区の方が回答が 1 ポイント高くなった。次に回答が多くなったのは、両地区とも「3. 下水道料金の内訳と使い道」であった。

図5-2 下水道に関して知りたいと思うこと〔性別・地域別〕

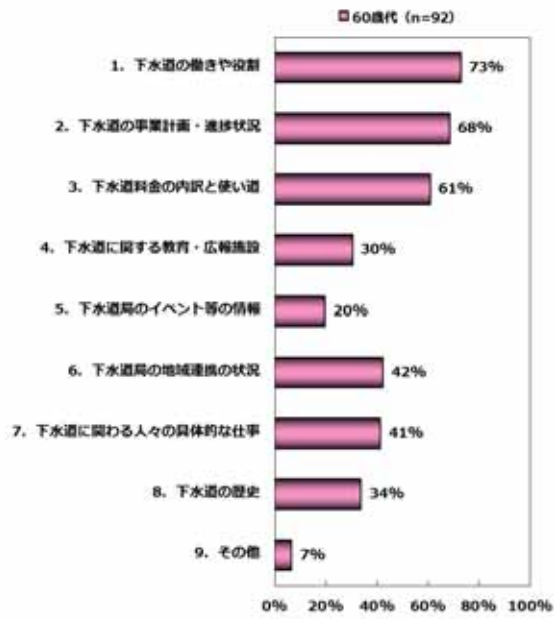


5-3. 下水道に関して知りたいと思うこと〔年代別〕

- 年代別に最も多くなった項目をみると、20歳代と70歳以上では「3. 下水道料金の内訳と使い道」であり、30～60歳では「2. 下水道の働きや役割・貢献内容」となった。

図5-3 下水道に関して知りたいと思うこと〔年代別〕





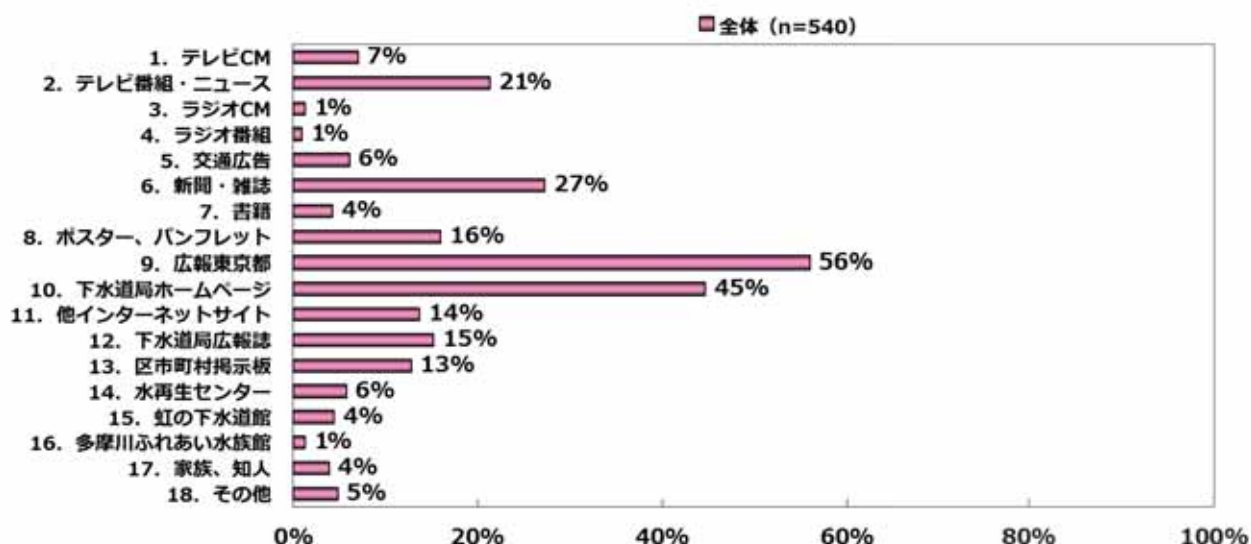
6. 下水道事業の認知経路

6-1. 下水道事業の認知経路〔全体〕

- 下水道事業に関する認知経路をみると、全体では、回答が多かった順に「9. 広報東京都」56%、「10. 下水道局ホームページ」45%、「2. テレビ番組・ニュース」27%となった。
- 前回平成 25 年度調査と比べて、1、2 位に順位に変動は無いが、「9. 広報東京都」が 6 ポイント下げ、「10. 下水道局ホームページ」が 5 ポイント上げた。また、「2. テレビ番組・ニュース」が 5 ポイント低くなった。

Q22. あなたは東京都下水道局や下水道事業の内容について、どのようなところから知ることが多いですか？以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお答え下さい(複数回答)。

図6-1 下水道事業の認知経路



※カッコ内は回答件数を示す。

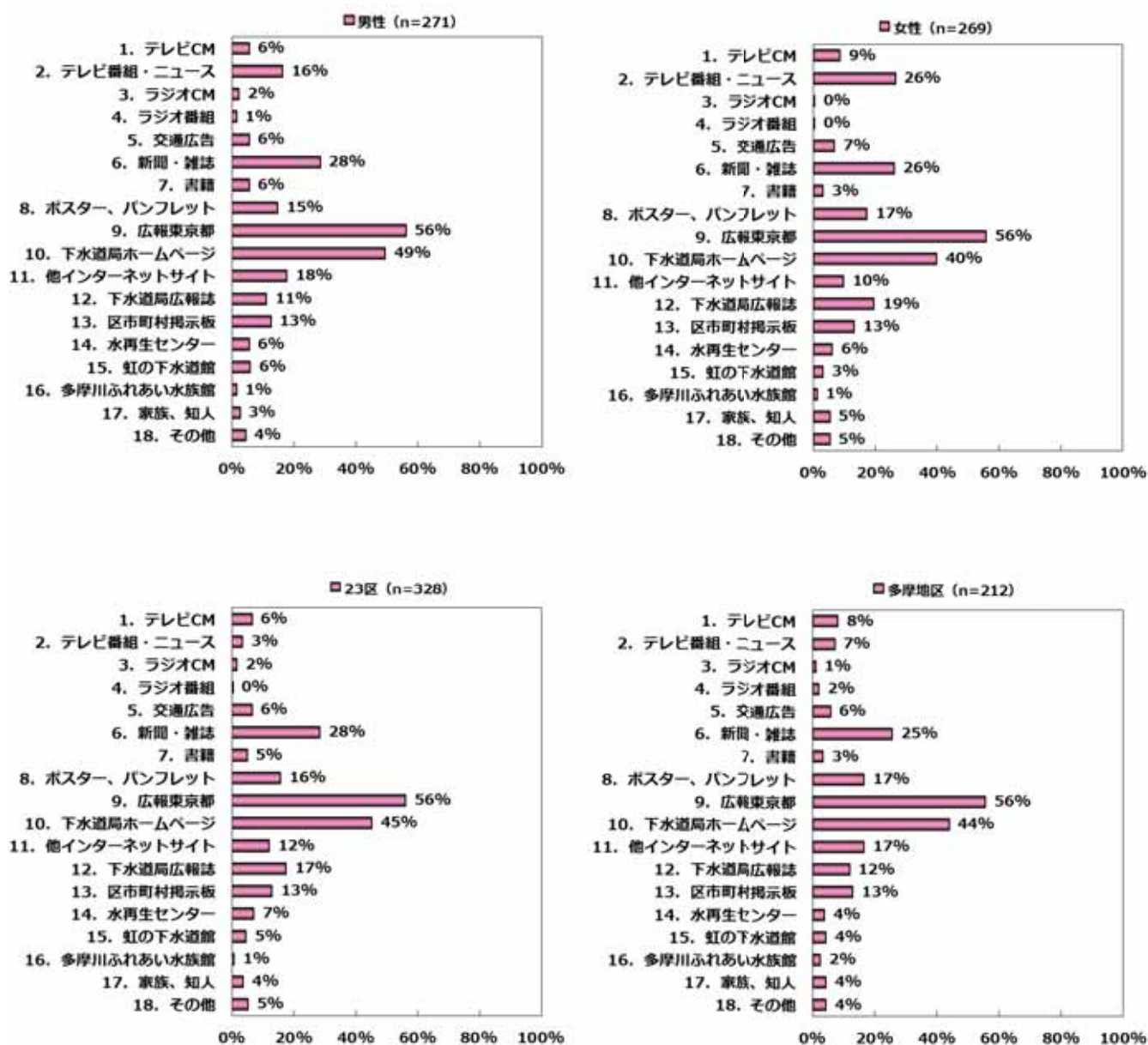
1. アメッシュ(3)
2. 参考 <http://thai log. net/2014/05/16/11626/>
3. 下水道局の事業に関する情報をほとんど聞いたことがない。(4)
4. 特になし
5. カルチャー(大学講座)にて
6. 仕事を通じて
7. 市の広報誌
8. エコプロダクト
9. 見学会
10. イベント
11. 厚生労働省HP
12. SNS
13. 下水工事現場
14. 公害問題がなくなってきたのであまり知らない
15. 下水道関連設備建設中の囲いに貼ってあるメッセージ的なものから
16. ビルのトイレに貼ってある、注意や標語が併記してある水道局のステッカー
17. 地域の祭り
18. 公式ツイッター
19. このモニターに参加するまで何も知らなかった
20. 折込広告

6-2. 下水道事業の認知経路〔性別・地域別〕

- 男女ともに最も回答の多いものは「9. 広報東京都」であるが、男性では次いで「10. 下水道局ホームページ」(49%)、「6. 新聞・雑誌」(26%)の順であり、女性では「10. 下水道局ホームページ」(40%)「2. テレビ番組・ニュース」と「6. 新聞・雑誌」(26%)が同ポイントとなった。4位は男女とも、「6. 新聞・雑誌」、5位は男性では「11. 他インターネットサイト」、女性では「12. 下水道局広報誌」となった。
- 地域別では、1~3位までの認知経路は全体と同じ順位であった。

Q22. あなたは東京都下水道局や下水道事業の内容について、どのようなところから知ることが多いですか？以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお答え下さい（複数回答）。

図6-2 下水道事業の認知経路〔性別・地域別〕

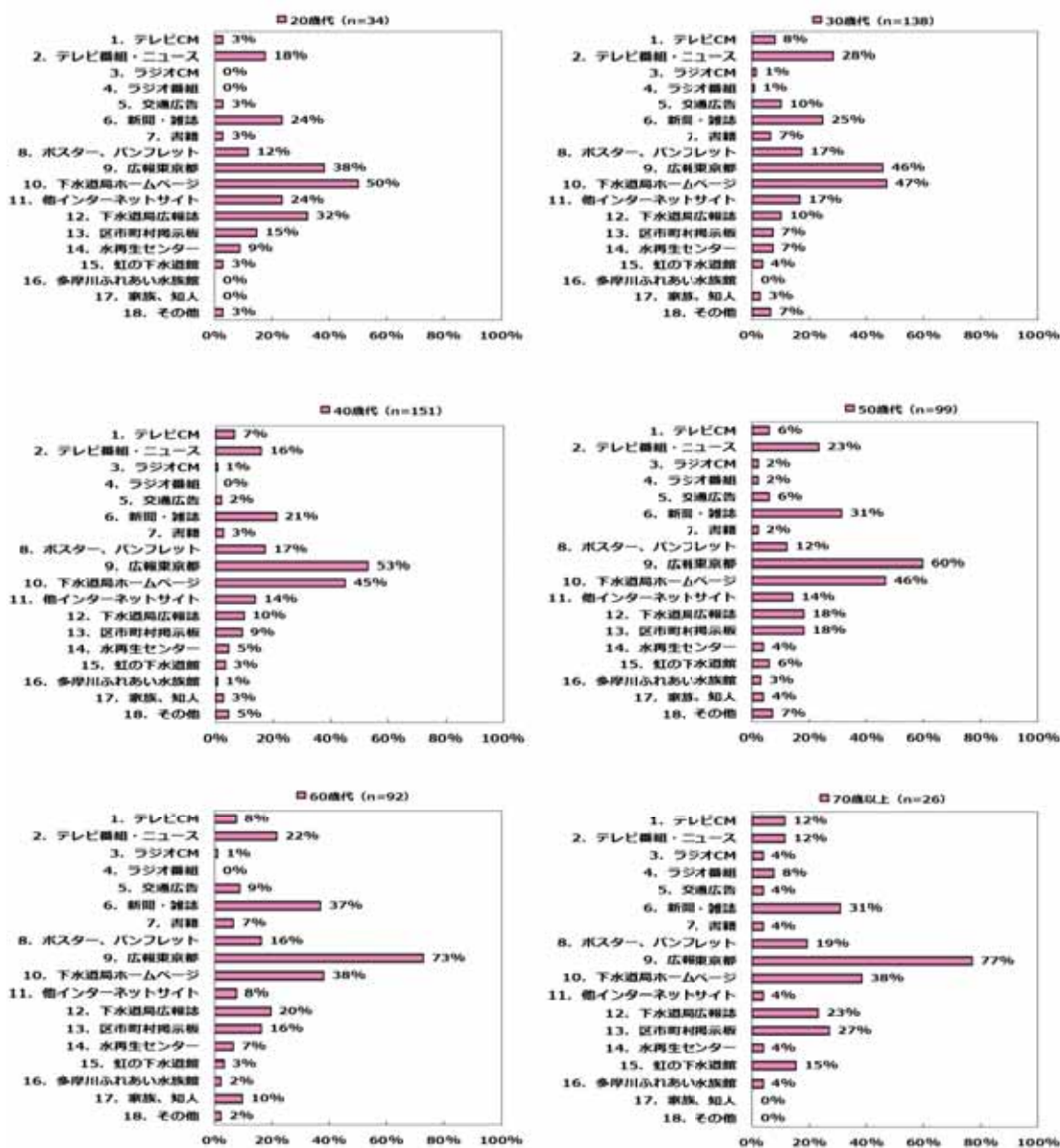


6-3. 下水道事業の認知経路〔年代別〕

- 年代別にみると、20歳代、30歳代では、「10. 下水道局ホームページ」が「9. 広報東京都」を上回る結果となったが、年代が上がるにつれて「9. 広報東京都」の回答が多くなっている。なお、「9. 広報東京都」について最も回答の少ない20歳代の38%は、最も多い70歳以上の77%と比べて、39ポイントも少ないものとなっている。

Q22. あなたは東京都下水道局や下水道事業の内容について、どのようなところから知ることが多いですか？以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお答え下さい(複数回答)。

図6-3 下水道事業の認知経路〔年代別〕



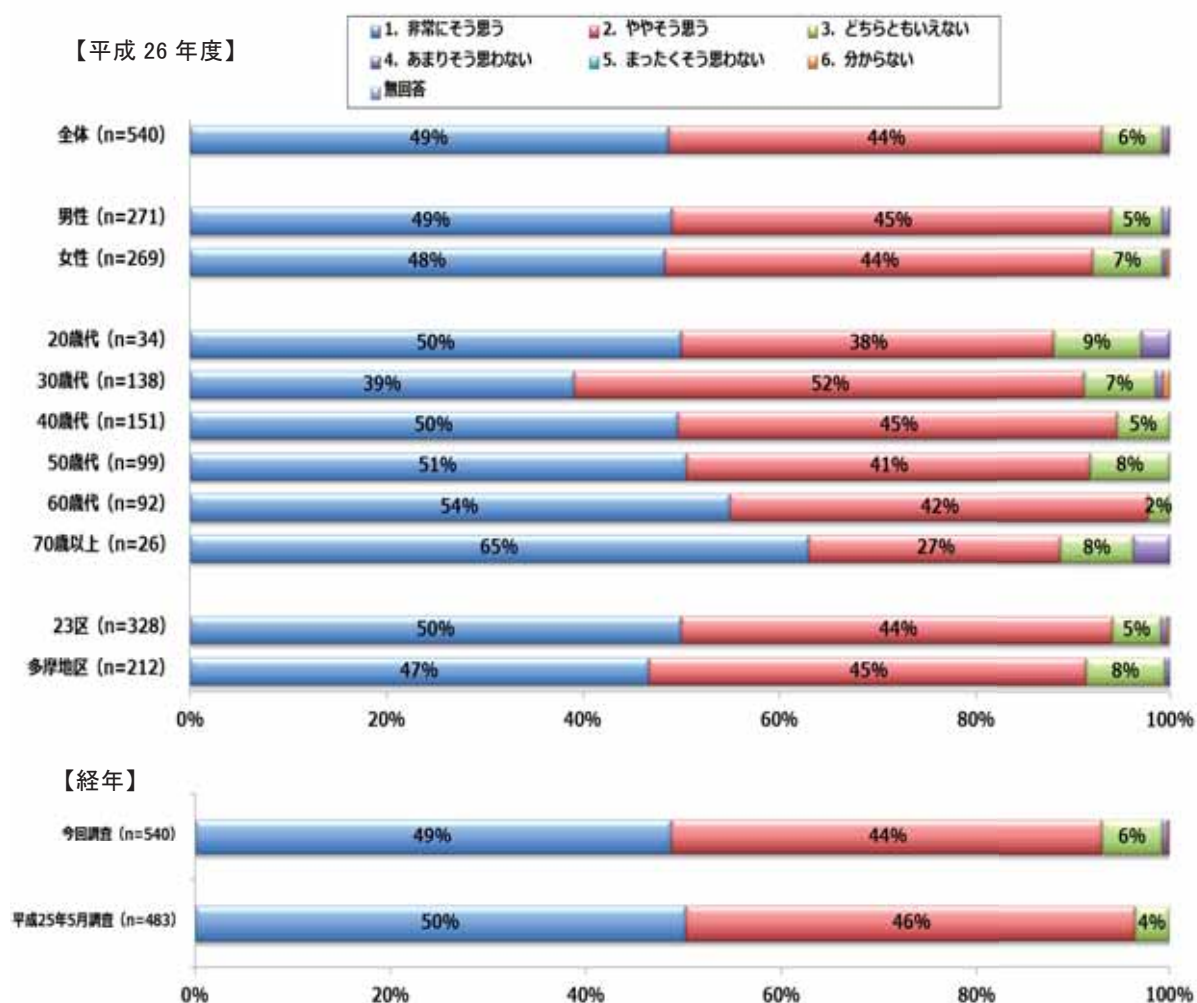
7. 下水道事業に関する情報の探求意思、共有欲求

7-1. 下水道事業に関する情報の探求意思

- アンケートの回答後、下水道局や下水道事業について、さらに詳しく知りたいと思うかについて質問を行った。全体では、「知りたいと思う（非常にそう思う+ややそう思う）」との回答が79%となった。
- 男女別にみると、「非常にそう思う」は男性で24%、女性は29%となり男性の方が女性よりも5ポイント高くなった。
- 年代別にみると、40歳代以上では、過半数が「非常にそう思う」と回答しているが、20歳代はこれについて39%という結果となった。
- 地域別にみると、「非常にそう思う」との回答は23区では50%、多摩地区では48%となり、23区が2ポイント高くなった。
- 下水道局や下水道事業について、さらに詳しく知りたいと思うかについて経年変化をみると、平成25年度調査でも「知りたいと思う（非常にそう思う+ややそう思う）」との回答が96%でほぼ同様の結果が得られている。

Q23. あなたは、下水道局や下水道事業について、さらに詳しく知りたいと思いましたか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお答え下さい（単一回答）。

図7-1 下水道局、下水道事業の情報の探求意思

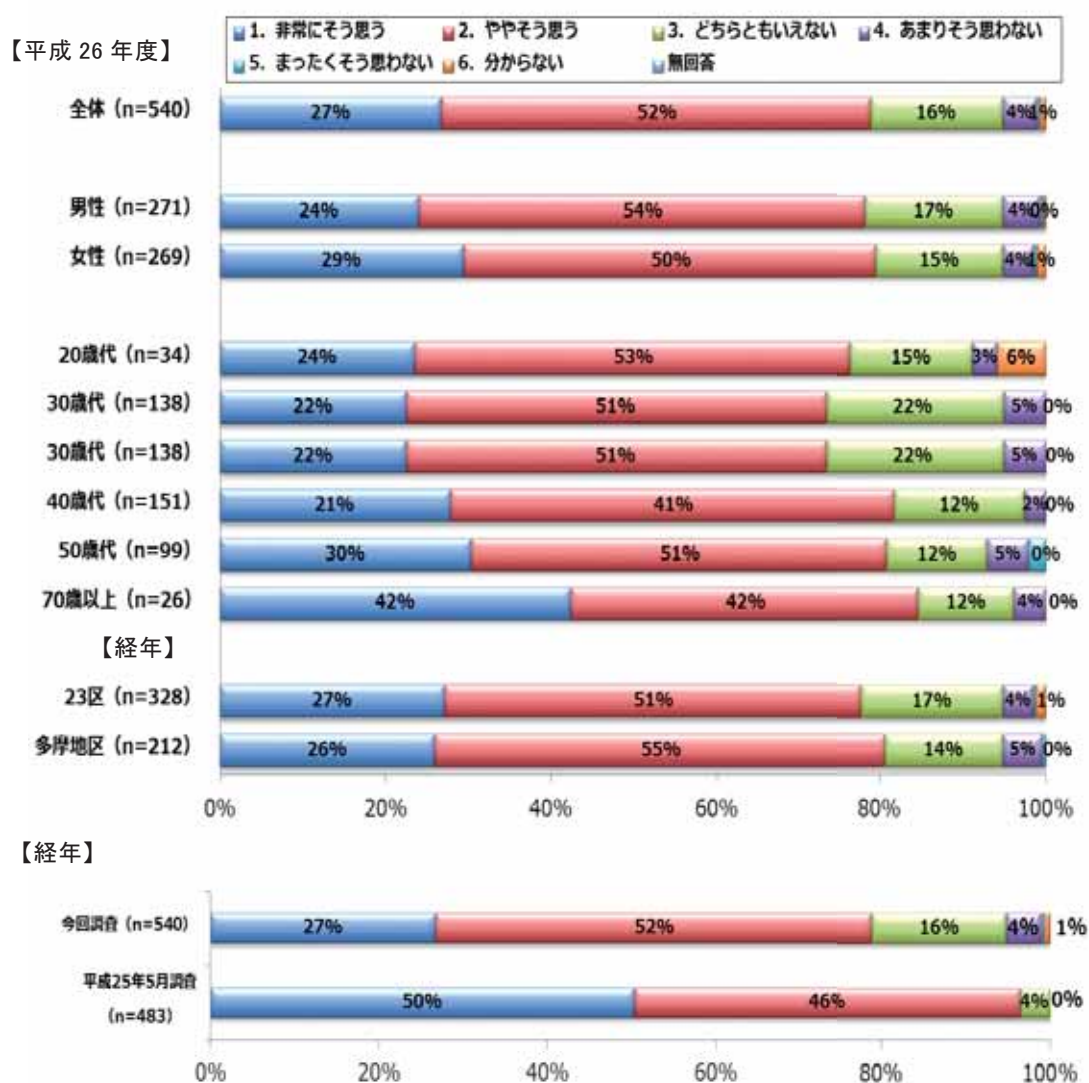


7-2. 下水道事業に関する情報の共有欲求

- 下水道局や下水道事業について、知っていることを共有したいと思うかについて質問をおこなった。全体では、「情報を共有したいと思う(非常にそう思う+ややそう思う)」との回答が81%となった。
- 男女別にみると、「非常にそう思う」は男性で30%、女性は33%となり、女性の方が男性よりも3ポイント高くなった。
- 年代別にみると、70歳以上において「非常にそう思う」と回答が多く51%となった。なお、最も少ない20歳代は27%であり、24ポイントの差が生じている。
- 地域別にみると、「非常にそう思う」は23区では30%、多摩地区では36%となり、多摩地区が6ポイント高くなった。
- 経年でみると、平成25年度調査に比べ「非常にそう思う」、「ややそう思う」の比率がそれぞれ1ポイントずつ高くなった。

Q24. あなたは、下水道局や下水道事業に関して知っていることを、周囲の人に知らせたいと思いますか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお答え下さい（単一回答）。

図7-2 下水道局、下水道事業の情報の共有欲求



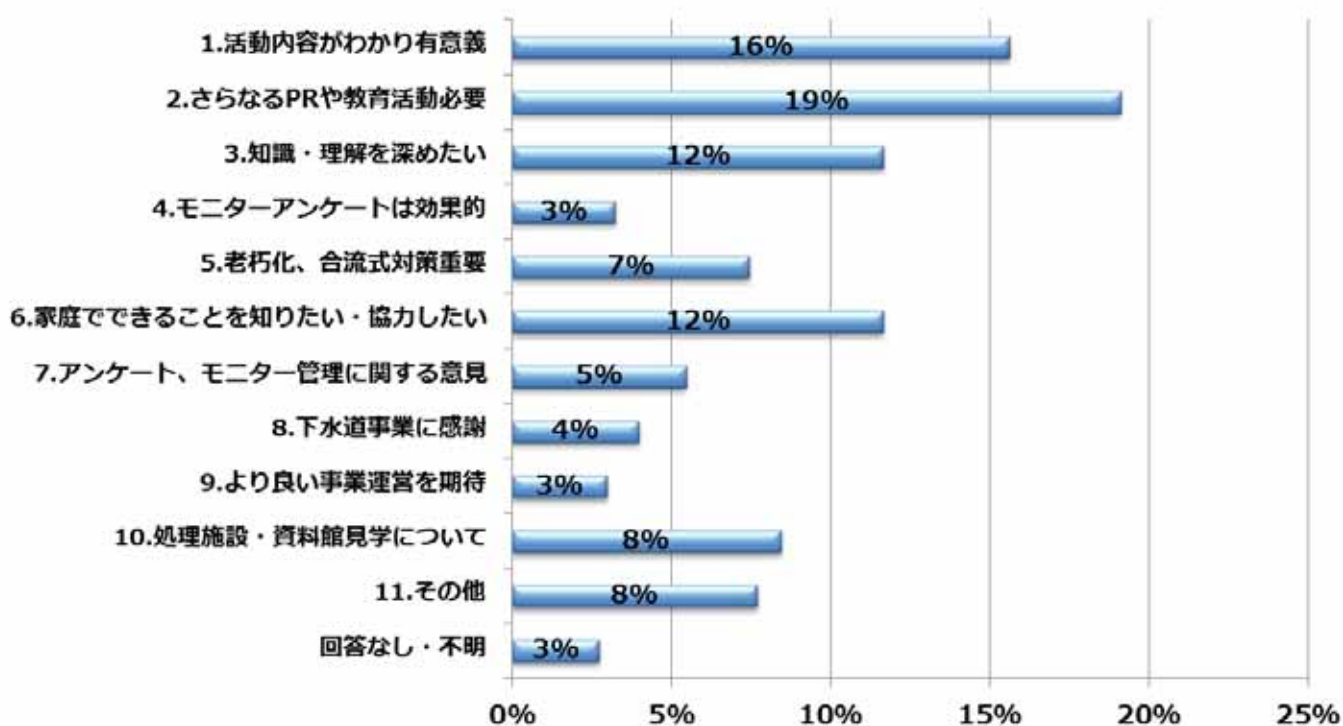
8. 下水道局へのご意見・ご要望など

8-1. 東京都下水道局へのご意見・ご要望

- 東京都下水道局へのご意見やご要望としては、アンケートにより「さらなるPRや教育活動必要」が19%と最も多く、次いで「活動内容がわかり有意義」が16%、「3.知識・理解を深めたい」「6.家庭でできることを知りたい・協力したい」が共に12%と多かった。

Q25. 以上、東京都の下水道事業について色々とおたずねして参りましたが、今回のアンケート内容（本アンケートにより、イメージが変わられた方はその理由など）、および東京都下水道局へのご意見・ご要望等がございましたら、お聞かせ下さい（自由回答）。

図8-1 東京都下水道局へのご意見・ご要望



※ 上記は、表記のキーワードに関連する内容を記載した回答者の割合（率）である。

8-2. 東京都下水道局へのご意見・ご要望例

- 東京都下水道局へのご意見やご要望、アンケートに対するご感想など、多数お寄せいただきましたので、ここに一部ご紹介いたします。
-

Q25. 今回のアンケート内容(本アンケートにより、イメージが変わられた方はその理由など)、および東京都下水道局へのご意見・ご要望等がございましたら、お聞かせ下さい(自由回答)。

1. 「活動内容がわかり有意義」に関連した意見

- ◆ 生活していく上で重要なことで知らなかったことが多く、非常にためになりました。ありがとうございました。(多摩地区男性、40歳代)
- ◆ 公共的に、非常に重要な役割を担っている割に、知られていないことが多いことを痛感しました。いい機会だったと思います。(多摩地区男性 70歳以上)
- ◆ 普段の生活の中で下水道のことなど全く考えたことがありませんでしたが、実はとても密接なものだと気づきました。目に見えるところになく地味なイメージが一新されました。(多摩地区男性、40歳代)
- ◆ 上水道については直接水を飲むので興味があったが、下水道に対しては、あまり知らないで、今回のアンケートで色々取り組みをしていることを初めて知りました。(多摩地区女性、30歳代)
- ◆ 環境整備において、色々取り組みを行っている事を初めて知ることができました。(23区女性、30歳代)

2. 「さらなるPRや教育活動必要」に関連した意見

- ◆ 下水道局が具体的にどんな事を行っているのかわからなかった点が多い事、それが目立たないがとても重要な事だという事を知りました。水道局はもっと多くの人に積極的に告知していく事が重要だと思います。上水道は身近ですが下水道の事は普段ほとんど気にする事はありません。(多摩地区男性、60歳代)
- ◆ 情報を幅広く知ってもらえるようにできるといいと思いました。小学校では4年生では水道キャラバンというのがありますが、下水道は聞かないので、水道キャラバンのように学校に教育に行く広報活動もあってもいいかなと思いました。(23区女性、40歳代)
- ◆ 色々な取り組みをされているのはわかりました、もっと世間に知ってもらおうと取り組みがスムーズに運ぶ気がしました。(多摩地区男性、40歳代)
- ◆ 下水道は欠かせない社会インフラであるが、インフラが故に目立たない存在である。日常生活にこれだけ役立っている、災害時はこれだけ役に立つインフラであることをメディアを使ってもっとPRすべきだと思います。下水道インフラの重要性を認識すれば、公共料金が生活基盤に役立っていることを利用者が認識し、事業にも貢献できると感じました。(23区男性、50歳代)
- ◆ 余りにも知らないことが多いことにビックリです。私と同じ人が国民の97パーセント位いるんじゃないかと思いました。PR不足だと思います。キレイになった河川を国民に守ってもらうためにもお願いします。(多摩地区女性、60歳代)

3. 「知識・理解を深めたい」に関連した意見

- ◆ もともと興味があったので、知っていることも多いと思っていましたが、具体的な話では知らない点も多かったので、ますます勉強したくなりました。(23区女性、40歳代)
- ◆ 自分の知らないことが多いので積極的に知ろうとしていきたいです。(23区女性、20歳代)
- ◆ 今まで、自分が知らないことが多くて、不甲斐なさを感じました。今まで以上に、色々なところから、情報を得たいと思いました。(23区女性、30歳代)
- ◆ 下水道は、上水道と違い、どちらかと言えば「縁の下の力持ち」的なイメージが有ります。故に、大雑把には「この様な事を実施しているのだろうな」位は分かりますが、まだまだ知らない部分有りそうですね。モニターを通じて、下水道(事業)について更に理解を深められたら良いな、と思っております。(23区男性、60歳代)
- ◆ 知っていたかと思っていたがわからないことがいっぱいありました。これから学んでゆきたい一番身近な問題です。(多摩地区女性、70歳以上)

4. 「モニターアンケートは効果的」に関連した意見

- ◆ 下水道局の事業内容や下水道の役割など、ほとんど知らずに日々過ごしていたことが分かったので、アンケートでの質問という今回のような形で知らせていただくと勉強になってよいと思います。小学生の甥と姪に教えてあげたいと思いました。(多摩地区女性、30歳代)
- ◆ 下水道、まさに見えないところでの活躍もっと重要性を知りたいし知ってもらいたいと感じました。今回のモニターはいい機会になりました。(多摩地区男性、40歳代)
- ◆ 政治と違って、下水道に関する事業はあまりメディアに露出しません。そのため、今回のアンケートでは下水道事業について広く知ることができて、自分のためになりました。(23区男性、30歳代)
- ◆ このアンケートにより下水道についてあまりにも知らないことが多かったです。(多摩地区女性、50歳代)
- ◆ 当局はもっと都民にアピールし、関心を高めるべきだと思います。(23区女性、70歳以上)

5. 「老朽化、合流式対策重要」に関連した意見

- ◆ 下水道には様々な重要な役割があることを知りました。また、老朽化が進んでいるとは知らなかったです。古いものを順次取り替えていくとなると、費用も期間も莫大になるかと思えます。現状、それらがどのような計画になっているのか、知りたいです。(多摩地区女性、30歳代)
- ◆ 下水管の老朽化が激しいことを改めて認識しました。大地震への準備として、早急に改築がなされるよう、強く要望します。25所帯の自主管理のマンションに住んでいますが、理事会、総会でもっと下水道の問題を発言使用と思いました。(23区女性、60歳代)
- ◆ 再生水を作って再利用していたことを知らなかったので勉強になりました。これからまたゲリラ豪雨の季節になると下水処理等の被害が出る可能性もあるので老朽化した下水管など早急に取り換えるべきと思いました。(23区女性、40歳代)

- ◆ このアンケートではじめて東京都の下水道が合流式下水道というものであったと知りました。昨今、大雨がよく降るので、処理されていない下水がそのまま流れていくのは、海の環境上よくないと思います。老朽化した下水道管を交換する時に何かできることはないのでしょうか。汚泥をセメントなどの原料にするとありましたが、環境上のもんだいはないのか気になりました。下水道は地下のことなので、とても大変なことだと思いますが、これからも都民のため日本の環境のため、ご努力をお願いします。(23区女性、50歳代)
- ◆ 知らないことがいっぱいでした。光ファイバーのことや、古くなった水道管の取り換えが進んでいないことなど衝撃的でした。水道管の取り換え費用の負担は100パーセント持ち主でしょうか。(多摩地区女性、40歳代)

6. 「家庭でできることを知りたい・協力したい」に関連した意見

- ◆ 自分自身かなり理解しているようには思えたがこれからも家族や機会ある毎に話題を提供したいです。(23区男性、70歳以上)
- ◆ 思っていたより、様々な貢献を社会にしているのだと知りました(汚泥のセメント化、下水管へファイバーを通すなど)。油を流さないといった方法のほかに、家庭や日常生活で住民が上下水道へ貢献できる方法があれば、教えて頂きたいです。(23区女性、20歳代)
- ◆ 下水道の役割がこれほどあるとは知りませんでした。下水道使用料を払っている人に周知させるべきだと思いましたし、もっと関心を持って知ったことを広めたいと思いました。ありがとうございました。(23区女性、40歳代)
- ◆ 下水道事業に関してあまりにも知らないことを実感しました。積極的にその役割を知り、その重要さを皆に広めたいと思いました。(多摩地区男性、70歳以上)
- ◆ 普段下水道についてあまり関心がなかったのですが、いろいろな役割を持っていることがわかりました。このことを広く知らせるべきだと思いました。(多摩地区男性、40歳代)

7. アンケート、モニター管理に関する意見

- ◆ アンケートに答えながら、内容についてもう少し学べると良いと思った。(23区女性、20歳代)
- ◆ ネットで回答できるので簡単に負担なく回答できて良かったです。(多摩地区女性、40歳代)
- ◆ 家庭での節水努力がどの程度、料金に反映しているのか、また公共の利益に利しているのかを典型的な例で説明してほしいです。メルマガのリンクからアンケートへ飛べるようにしていただけるといいと思います。(多摩地区女性、60歳代)
- ◆ 上水道、下水道は互いに密接に関係しているのに、両者の連携活動が見えません。今後、アンケートで触れられることを期待します。(多摩地区男性、60歳代)
- ◆ 1回目のアンケートがとても答えやすかったので、今後もこれくらいの量で、形式もこのような形だと答えやすいです。(23区女性、20歳代)

8. 下水道事業に感謝

- ◆ 下水道事業が多方面に影響を与える重要なインフラ事業だと再認識しました。(多摩地区男性、60 歳代)
- ◆ 下水道事業の奥の深さを痛感しました。今後も積極的な活動をお願いします。(23 区男性、50 歳代)
- ◆ 日常生活では有難みをあまり感じませんが説明されると非常に重要なインフラ事業と感じます。(23 区男性、70 歳以上)
- ◆ 下水道に対する認識があまりにもなく、ただ汚い水を再生するための機関のように思っていました。私達が生活する上で下水道技術が生かされているのだと感じました。大雨の時の排水設備や、コンクリートへの加工技術など、さらに様々な進歩できれば素晴らしいと思いました。(23 区女性、50 歳代)
- ◆ 下水道が私たちの毎日の生活に密接に関わっていると改めて痛感させられました。(多摩地区女性、60 歳代)

9. より良い事業運営を期待

- ◆ これからの日本は新しいものを作るのではなく、今ある道路や水道を補修して行くことが大事だと思います。大事な税金が無駄な事業に使われないようにしてもらいたいものです。(多摩地区女性、50 歳代)
- ◆ アンケートの入力が判り易く、容易でした。下水道に関しては、水資源を飲料とトイレなど飲むことの無い水に分けて、一般家庭でも有効利用できるように水道管とは別に配管するように義務化することを目指してほしいです。(23 区男性、60 歳代)
- ◆ 私たちの住む江戸川区の旧中川には、下水道局によってポンプ所から糞尿まじりの合流下水が放流されています。これをとめるための抜本的方策を考えて欲しいです。(23 区女性、60 歳代)
- ◆ 今後も費用対効果の高い事業の拡大を期待しています。(23 区男性、40 歳代)
- ◆ 老朽化していたり、環境に配慮した取り組みを行っていたりと知らなかったことがたくさんあると感じました。自然と経済にやさしい取り組みを今後も期待したいです。(23 区女性、40 歳代)

10. 処理施設・資料館見学について

- ◆ 早く見学に行きたいと思っています。(23 区男性、60 歳代)
- ◆ 施設見学会の開催曜日を平日では仕事のため参加できないため土日にしてほしいです。(多摩地区男性、40 歳代)
- ◆ 府中市に住んでおります。近くに、水再生センターがありますので、夏休みに行われる見学会に参加して、地下のトンネルや水がきれいになる過程を見学させて頂きました。職員の方の説明も分かりやすく、勉強になりました。(多摩地区女性、40 歳代)
- ◆ 下水道事業の取り組みが知らないことがたくさんで驚きました。これからいろいろ知っていきたいと思いました。見学が平日しかないのが残念です。土日開催されれば嬉しいです。(23 区女性、30 歳代)

以上